

# 梵文『仏頂尊勝陀羅尼經』と諸訳の対照研究\*

畝 部 俊 也

## 1. はじめに

本稿は『仏頂尊勝陀羅尼經』のサンスクリット語テキスト（梵本）を、漢訳およびチベット語訳と対照しつつ和訳を付して示し、将来のさらに厳密な校訂・翻訳研究に資する基礎資料を提供することを目的とする。

この經典がその因縁譚を語る『仏頂尊勝陀羅尼』(*Uṣṇīṣavijaya-dhāraṇī*)は、数ある陀羅尼類の中でも、アジア全域におそらく最も広く流布したものであると考えられる。「仏頂」*Uṣṇīṣa*とは、仏の三十二相の一つで仏の肉髻（頭頂部にある盛り上がり）のことであり、これを神格化した「仏頂尊」を象徴する『仏頂尊勝陀羅尼』は、日本でも古来より例えば真言宗の三陀羅尼の一つとして親しまれてきた<sup>1</sup>。また、有名な法隆寺貝葉およびそれに対する江戸時代の真言僧淨嚴による悉曇研究<sup>2</sup>を基礎資料として、19世紀末には『般若心經』とともに Müller and Nanjio (1884) として校訂出版されており、これは近代仏教文献学の幕開けを告げる大きな成果の一つとなっている。さらには、近年には、佐々木（2007-2013他）の一連の論文によって、改めて総合的な研究が発表されている。

日本では主に禪・密教系の宗派において、この陀羅尼は現在も単体で読誦されているが、漢訳・チベット訳の大蔵經においては『仏頂尊勝陀羅尼經』という、その因縁譚を説く經典の中

\* 本稿は平成24～26年度科学研究費補助金基盤研究(C)「タイの装飾写本等に基づくパーリ語蔵外仏典の研究」による研究成果の一部である。上記研究の主たる研究対象であるパーリ語蔵外仏典写本（一例として Appleton, Shaw and Unebe (2013) 参照）には、本稿で扱う『仏頂尊勝陀羅尼經』のパーリ語韻文バージョンがしばしば含まれている。両者の比較研究のための予備的考察は畝部（2014）ですすでに行っているため参照いただきたい。

本稿で提示する資料の作成（特に蔵訳・漢訳の転写など）にあたっては、名古屋大学大学院文学研究科修了の石野幹昌博士の協力を様々な面で得た。また、2013、2014年の「仏教写本研究」の授業に参加した学生諸氏の助力も得ている。記して謝意を表す。仏頂尊勝陀羅尼に関して近年精力的に研究成果を公表されている智山伝法院講師佐々木大樹博士には、上記科研プロジェクトの一環として、2014年2月17日から19日まで名古屋大学大学院文学研究科において仏頂尊勝陀羅尼に関するワークショップの講師をお願いし、裨益されるところ大であった。改めて感謝申し上げる次第である。

- 1 三陀羅尼については佐々木（2013）、尊勝儀軌などの密教的な仏頂尊勝陀羅尼の用法の概略については佐々木（2009）を参照のこと。日本における尊勝陀羅尼受容に関しては上川（2010）が詳しい。
- 2 これらの資料については、現在は国立博物館所蔵の国宝・重要文化財を紹介するe国宝のサイト<<http://www.emuseum.jp/>>より、鮮明な画像が閲覧可能である。

に収められた形で伝えられている。それらの因縁譚の翻訳は合わせて11種類にのぼり、すでに古くは Müller and Nanjio (1884, 31-35) に報告され、最近では佐々木 (2007a, 477-486; 2009, 214-217) によって詳しくまとめられているように、それらは大別すると、釈尊が善住 (Supratiṣṭhita) という名の天子のためにこの陀羅尼を説くというタイプ (Aタイプ) と、無量寿如来 (Amitāyus) が観自在菩薩に対して説くというタイプ (Bタイプ)<sup>3</sup>に分けられる。そして、佐々木 (2009, 215) が推定するように、訳出年代から見て、前者の成立年代は7世紀、後者の成立年代は10世紀までをその成立の最下限と考えることができる。

ネパールに残る諸サンスクリット写本はBタイプの因縁譚を伝えており、日本の『仏頂尊勝陀羅尼』信仰とも関連の深い、釈尊を教主とするAタイプの因縁譚は、漢訳 (5本)・チベット訳 (1本のみ) によってのみ知られ、インド亜大陸では古くに姿を消したと考えられてきた。しかし、1998年におそらく7世紀頃のものと思われるギルギット・バーミヤンI型文字による写本が、ある収集家によってロサンゼルス Art Conservation & Consulting Services に持ち込まれ、漢・蔵訳『仏頂尊勝陀羅尼経』の原典と見なされるサンスクリット文献がもたらされた<sup>4</sup>。

このギルギット・バーミヤン写本は、現在は滋賀県 Miho Museum に収められている<sup>5</sup>。この写本によれば、この文献のタイトルは *Sarvagatipariśodhana-Uṣṇīṣavijayā nāma Dhāraṇī* (一切趣清浄仏頂尊勝陀羅尼) となる。これは「如是我聞」で始まる経典冒頭の定型句を欠いており、経典という体裁はとっていないのであるが、全体としての内容は漢訳『仏頂尊勝陀羅尼経』によく相応している。本稿タイトルで便宜的に「梵文『仏頂尊勝陀羅尼経』」という表現を使っているのはそのためである。

実はこの写本については、すでに Melzer (2007) によるローマ字転写と、Provisional Edition が存在しており、そこには相応するチベット語訳についても言及されている<sup>6</sup>。また、Gregory Schopen による英訳も存在しているとの報告がある<sup>7</sup>。しかしながら、この英訳はまだ公刊されていないようであり、漢訳、チベット訳とを対照したテキストは今後の研究には有益であるで

3 参考のため、Müller and Nanjio (1884, 34) にあげられたテキストに基づき、試訳を Appendix として本稿第6節に付しておく。

4 この事情に関しては Batton (2000) に報告されている。なお、この論考では当該の写本は「5世紀のガンダラ写本」と捉えられているが、これは「7世紀頃のギルギット・バーミヤン写本」と修正すべきであると思われる。この年代は Schopen (2012, 282) が与えている。90年代になってアフガニスタンから大量の仏教写本が出現した背景については松田 (2010) を参照いただきたい。また、この写本についての短い報告が Matsuda (2013, 167-168), Hinüber (2013, 117) にある。

5 本稿筆者は2010年11月24日に同博物館においてこの写本の調査を行った。調査にあたってお世話いただいた同館の稲垣肇学芸員に感謝いたします。

6 本研究を開始した当初には Melzer (2007) の存在を知らなかったが、後に仏教大学松田和信先生より同論考を含む松田 (2007) をいただき、様々な貴重な情報も提供いただいた。ここに記して謝意を表します。チベット語訳との関係については、Skilling (2009 (2005)), 佐々木 (2007a 他) も指摘している。

7 Batton (2000) による。Schopen (2012, 282-283) 自身もこの写本に言及しており、fn. 22によれば2012年時点で校訂テキストを編集集中であるとのことである。

あろう。また、これまで漢訳に基づいた現代日本語訳は存在している<sup>8</sup>が、梵本からの訳出はまだない。本稿では、上記 Melzer の転写テキストに写本の読みに基づいた若干の修正を加え、あわせて漢訳、チベット語訳を対照させ、試訳も提示することとした。

## 2. 『仏頂尊勝陀羅尼經』の梗概

テキストの提示に先だって、まずは『仏頂尊勝陀羅尼經』の内容の梗概を示しておこう。漢訳の『仏頂尊勝陀羅尼經』には、伝統的な科註も存在している<sup>9</sup>が、詳細に過ぎる点もあるので本稿ではそれには従わずに、梵本を便宜的に12の節に分け、対照テキストもそれに従って提示することとする。

### §0 序：六成就文

經典を開始するにあたって「信聞時主処衆」という六事が完備していること<sup>10</sup>を示す「如是我聞……」ではじまる經典冒頭の定型句。(梵本、チベット訳には存在していない。漢訳諸本には存在しているが、文言は様々に出入りがあある。) 釈尊の説法の会所はシュラーヴァステー（舎衛城）のジェータ林、給孤独園とされている。

### §1 三十三天の善住天子への予言

三十三天において天界の樂を享受していた善住という名の天子が、7日目に命終して7つの悪い境涯に生まれ変わり、さらに地獄に墮ちる上に、たとえ人間に生まれ変わることがあっても貧困や盲目といった境遇に陥るといふ予言を聞く。

### §2 帝釈天に相談する善住天子

善住天子は三十三天の主である帝釈天にどうすればこのような境遇から逃れられるかを尋ねる。

### §3 帝釈天の反応

帝釈天は豚や犬など、7つの悪い境涯を觀察し、如来を除いて善住天子の抛り所はありえないことを説く。

### §4 帝釈天、釈尊の元へ

その日の夜、帝釈天はジェータ林の世尊を訪ねる。世尊に善住天子のことを告げると、世尊の頭頂の肉髻より光が放たれた。

### §5 陀羅尼の教示

世尊は悪い境涯への転生を避けることができる「一切趣清淨仏頂尊勝陀羅尼」が存在することを告げる。

### §6 仏頂尊勝陀羅尼

陀羅尼本文を説示する。（\*対照の便宜を図るため、真言宗の伝統にしたがって陀羅尼を分段し

<sup>8</sup> 教学研究委員会（2005）。序分を含めた仏陀波利訳（大正 No. 967）からの和訳で、書き下しも収められている。

<sup>9</sup> 豊山第十一世亮汰僧正（17c）録の『科註尊勝陀羅尼經』（勝又1978, 293-343）を参照した。これは唐の法崇による『仏頂尊勝陀羅尼經疏（教跡義記）』の抄本であり、上段に科文が付されている。

<sup>10</sup> 五成就とみる見解（佐々木2007a 参照）もあるが、ここでは前注に挙げた科註に従い六成就と見ておく。

ておく<sup>11)</sup>。

### §7 陀羅尼の功德

世尊は帝釈天に陀羅尼を受持するように述べ、その功德を説く。(＊この節には写本筆者の eye-skip によると思われる欠落部分があり、藏漢訳に基づく訳文を提示する。)

### §8 陀羅尼の功德2：ヤマ王の来訪

閻魔王(ヤマ)が来訪し、陀羅尼を唱えるものを守護すると述べる。

### §9 陀羅尼の効能

四天王の質問に答える形で、陀羅尼がどのような人にどのような効能を発揮するかが説かれる。

### §10 陀羅尼読誦の方法(儀軌)、壇法

「陀羅尼を成就する儀軌(vidhi)」が説かれる。

### §11 帝釈天への付嘱と善住天子へ伝授

世尊は帝釈天に陀羅尼を付嘱し、帝釈天は善住天子にこれを伝える。善住天子は陀羅尼に習熟して、悪趣への再生を回避し、長寿を回復する。

### §12 結び：帝釈天による仏陀再訪

帝釈天は善住天子とともに世尊を再訪し、聞法する。最後に善住天子は授記を受ける。

この梵本は、上記漢訳5本・チベット訳1本に伝わるAタイプの因縁譚を伝えており、これら諸本は概ねよく相応している<sup>12)</sup>。ただし、漢訳のうち、最も広く普及した683年の仏陀波利訳(大正No.967)と比した場合、梵本は冒頭§0のいわゆる六成就文を欠き、さらに、末尾の§12では、諸漢訳に見られる「爾の時大衆、法を聞きて歡喜・信受・奉行す」という最後の一文を欠いている。漢訳5本は全て冒頭の六成就文を備えており、大衆の隨喜を説く最後の文も、最も古いとされる679年訳の杜行顛訳(大正No.968)を除く680/682年の地婆訶羅訳(大正No.969)以降の諸訳には存在しているが、これら両者は、經典(sūtra)には定型的に見られるものであり、經典としての形式を整えるために漢訳時に付加された可能性がある<sup>13)</sup>。9世紀頃に訳出されたと考えられるチベット訳でも梵本と同じく両者は見られないため、ここからも、漢訳の冒頭部と終結部に関しては漢訳時の付加の可能性の方が高いように見受けられる。

## 3. 収載する資料について

本稿では、第7節より相応する諸テキストを対照させ、左右見開き提示する。左のページの

11 智山伝法院(2010, 168-180)に基づく。これも法崇および亮汰の科段に従うものである。さらに詳細な分段と諸本の対照については佐々木(2007b; 2007c)を参照されたい。

12 佐々木(2007a)がすでに梵本以外の諸訳を内容にしたがってさらに詳細に分節して対照した詳しい研究を提示しているので、是非参照いただきたい。

13 伝承によれば、漢訳5訳の梵本原典は、仏陀波利の将来した同本であるとされている。これは伝承上のことに過ぎないであろうが、最初の2訳の間に原典となる梵本が増広された蓋然性は高くない。この問題を含め、諸漢訳の関係については、佐々木(2007c)に詳しい。

上段コラムにまず梵本テキストを提示する。すでに写本の読みそのものに基づく Provisional Transliteration とそれに基づいた Provisional Edition とが Melzer (2007) によって提示されているので、ここでは、写本の損傷によって欠けているパッセージが、写本中の類似した句や他の大乘經典に見られる平行テキスト等から推定できる場合には、それを補った形で提示することとした。補った箇所は{ }に入れておく。特に根拠を示さず Melzer (2007) の補正に従った場合もある。また、筆写の誤りの可能性のある読みの一部を同様に修正し、< >に入れておく。この梵本では正規のサンスクリット語の文法に基づいて考えると文意を取れない変化形が特に後半多く現れるが、ここではそれが筆写の誤りに基づくのか、仏教混交梵語的なものであるのかについては考察していない。今回のこの補正は資料提示のための便宜的なものに過ぎないので、カッコに入った箇所に関しては、下段に提示する写本の読みを参照して、将来再検討する必要がある。また、チベット訳を活用すれば、さらに大胆な原文比定や写本の読みの修正も可能であると思われるが、本稿では資料となる類似した句が得られない箇所については、空白 (...) のままとし、損傷箇所をサンスクリットで復元することは行わなかった。ただし、訳文については、チベット訳、漢訳に基づいて補ったものを{ }に入れて提示しておく。

本稿の提示する梵文テキストは、厳密な批判的校訂本を完成させることよりも、包括的な資料を提示することに重点を置いたものであり、補正案の一例に過ぎない。転写ミスと思われる箇所などの最小限の訂正案の提示にとどめ、一部を除いて文法的な誤り（非正規形）や連声の修正などは行っていない。例えば、男性・女性の複数形の第1、2格として、-āni で終わる中性形のような形が少なくとも6回(2r6, 3v7, 5v9, 6r1, 6v7, 7r11)は現れているが、頻度からみて誤写でなくこのような語法が存在していた可能性もあるため、そのままにしている。ただし、写本中に見られる子音連続の綴字（例えば、“Śakra”が“Śakkra”と綴られる一方、“sattva”は“satva”と綴られる等）については、表記上の問題であっておそらく音価は変わらないと思われるので、標準的な綴り方に改めておいた。なお、本写本に見られる連声子音（古宇田(1999)参照）については梵文テキストには記録していない。

梵本テキストの下の中段コラムに、網羅的なものではないが、テキスト補正の資料とした参照テキストの例を挙げておく。經典の例に違わず『仏頂尊勝陀羅尼經』には他の仏典と共通する定型的な表現が多く使用されており、写本が損傷していてもこれらの定型表現から原文を推定できる箇所は少なくない。

左ページの下段コラムには、Miho Museum 写本のローマ字転写(transliteration)を Melzer (2007) より転載しておく。ただし、2010年に筆者が撮影した同写本の写真に基づいて修正した読みが若干存在している。上記の連声子音（母音間への子音挿入）についても転写方法を改めている。

右のページの上段コラムには、チベット語訳を提示する。釈尊が善住という名の天子のためにこの陀羅尼を説くAタイプの因縁譚は、チベット語訳としてはジナミトラ、スレーンドラボー

ディ、イエシエーデ共訳の一本 (P. No. 198, D. 東北 No. 597) しか存在していないため、これを収載する。北京版を主とし、デルゲ版の異読を注記しておく。ただし、チューキデ、バリ共訳の一本 (P. No. 199, D. 東北 No. 594) は、無量寿如来が教主となる B タイプの因縁譚のなかに、A タイプの因縁譚の後半部を組み込んだ折衷的なものであるため、この部分に関してはそこに見られる異読も注記しておく。すでに Melzer (2007) が注記しているように、梵本の §10 と §12 に相応する箇所は前者に存在せず、後者がよく相応しているため特に注意が必要である。

中段コラムには、漢訳としては古来最も重要視され、中国の五台山信仰にも深く関わる仏陀波利訳『仏頂尊勝陀羅尼経』(大正 No. 967) を挙げておく。10世紀に翻訳された法天訳(大正 No. 978)を除く漢訳5本は、すべて釈尊が教主となる A タイプの因縁譚を伝えるものであるが、紙幅の都合でここでは仏陀波利訳のみを収録する。なお、大正新脩大藏経の仏陀波利訳『仏頂尊勝陀羅尼経』には、陀羅尼本文として高麗本に基づくもの他に、宋本、明本に基づく陀羅尼も収められている。本稿では比較の便宜のため、高麗本ではなく、より梵本に近い宋本のみ(宋本、明本にはほとんど違いはない)を収載しておく。

最後の下段コラムには、参考として梵文テキストからの試訳を付しておく。ここではテキストの読みの問題には踏み込まず、おおよその文意を明らかにすることを優先した。

#### 4. 対照テキスト基礎資料

サンスクリット写本：

Ms: *Sarvagatipariśodhana-Uṣṇīṣavijayā nāma Dhāraṇī*: Melzer (2007, 107–112): Provisional Transliteration  
滋賀県 MIHO MUSEUM 所蔵。7葉。ギルギット・バーミヤン I 型文字写本(7世紀頃)。  
転写テキストとしては上記 Melzer 本を依用する。ただし、筆者撮影による同写本の写真に基づいて修正案を示す場合には適宜注記した。

参照サンスクリット語テキスト：

便宜的に GRETEL <<http://gretel.sub.uni-goettingen.de>> 上にあるデータを使用した。文献情報については、同サイトを参照されたい。梵文テキスト推定に利用した箇所には下線を引いておく。  
チベット訳：

T1: 北京版 P. No. 198 (vol. 7, p. 166–): 226b5–231b3 / デルゲ版 D. 東北 No. 597: 243b1–248a3:  
*phags pa ngan 'gro thams cad yongs su sbyong ba gtsug tor rnam par rgyal ba zhes bya ba'i gzungs*  
(*ārya-sarvadurgatipariśodhani-uṣṇīṣavijaya-nāma-dhāraṇī*)、Jinamitra, Sirendrabodhi, Ye shes sde  
訳。上述のように、この訳に含まれていない §10, 12 は以下に基づく。

T2: 北京版 P. No. 199 (vol. 7, p. 168–): 231b3–239b4 / デルゲ版 D. 東北 No. 594: 230a1–237b4: *de*  
*bzhin gshegs pa thams cad kyi gtsug tor rnam par rgyal ba zhes bya 'i gzungs rtoḡ pa dang bcas pa*  
(*sarvatathāgatoṣṇīṣavijaya-nāma-dhāraṇī-kalpasahitā*)、Ba-ri, Chos kyi sde 訳。

漢訳：

C1: 大正新脩大藏經 No. 967 『仏頂尊勝陀羅尼經』、仏陀波利訳（大正新脩大藏經 vol. 19, 349c-352c）。

ただし陀羅尼本文は高麗本（350b-c）ではなく、宋本（352a-b）に基づく。教学研究委員会（2005, 112-113）所収の同訳の聖武天皇発願の天平十一年写本に基づく版（C2）も適宜参照した。読みやすさを考慮し、便宜的に句読点や括弧などを付している。

なお、梵文テキストの空白箇所の訳出に利用した漢蔵訳文中の句には下線を引いておく。

## 5. その他参考文献およびデータ

- 池田澄達 1916: 「梵本アパリミターユル陀羅尼經の校合」『宗教研究』13: 549-564。
- 畝部俊也 2014: 「タイに伝わる *Unhissa-vijaya* と『仏頂尊勝陀羅尼經』」『印度学仏教学研究』62.2: (201)-(208)。
- 郭麗英 2007: 「仏頂尊勝陀羅尼の伝播と儀式」『天台学報』（特別号：平成十五年開催国際天台学会論集）：(1)-(39)。
- 勝又俊教（編）1978: 『続豊山全書』5、続豊山全書刊行会。
- 上川通夫 2010: 「尊勝陀羅尼の受容とその転回」『方法としての仏教文化史：ヒト・モノ・イメージの歴史学』、勉誠出版、pp. 119-115。
- 教学研究委員会 2005: 「『仏頂尊勝陀羅尼』の効能—仏陀波利訳『仏頂尊勝陀羅尼經』・訳注—」『臨濟宗妙心寺派教学研究紀要』3: 91-139。
- 古宇田亮修 1999: 「写本における *samdhī* の問題について」『大正大学総合仏教研究所年報』21: (83)-(85)。
- 佐々木大樹 2007a: 「仏頂尊勝陀羅尼經の研究」『智文学報』56: (475)-(492)。
- 佐々木大樹 2007b: 「尊勝陀羅尼分類考」『大正大学総合仏教研究所年報』29: (129)-(156)。
- 佐々木大樹 2007c: 「尊勝陀羅尼成立考」、大正大学真言学豊山研究室加藤精一博士古稀記念論文集刊行会編『加藤精一博士古希記念論文集 真言密教と日本文化』、ノンブル社、pp. 235-264。
- 佐々木大樹 2009: 「仏頂尊勝陀羅尼概観」『現代密教』20: 211-234。
- 佐々木大樹 2013: 「三陀羅尼」、高橋尚夫・木村秀明・野口圭也・大塚伸夫編『初期密教 思想・信仰・文化』、春秋社、pp. 166-177。
- 智山伝法院 2010: 『智山の真言—常用經典における真言の解説—』、智山伝法院。
- 塚本啓祥・松長有慶・磯田照文（編著）1994: 『梵語仏典の研究IV 密教經典篇』、平楽寺書店。
- 松田和信（編）2007: 『平山郁夫コレクションのアフガニスタン・パキスタン出土仏教写本研究』平成15~18年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書（課題番号15320011）。
- 松田和信 2010: 「中央アジアの仏教写本」奈良康明・石井公成編『新アジア仏教史5 中央アジア 文明・文化の交差点』、佼成出版社、pp. 119-158。
- 密教聖典研究会 2004: 「『不空羂索神變真言經』梵文写本転写テキスト」(5)、『大正大学総合仏教研究所年報』26: (120)-(183)。
- Appleton, Naomi, Sarah Shaw, and Toshiya Unebe 2013: *Illuminating the Life of the Buddha: An Illustrated Chanting Book from Eighteenth-century Siam*, Oxford: Bodleian Library.
- Batton, Susan Sayre 2000: "Separation Anxiety: The Conservation of a 5th century Buddhist Gandharan Manuscript". <<http://www.asianart.com/articles/batton/>>
- Harrison, Paul and Jens-Uwe Hartmann 2013: *From Birch Bark to Digital Data: Recent Advances in Buddhist Manuscript Research*, ed. by, Wien: Austrian Academy of Sciences Press.
- von Hinüber, Oskar 2013: "The Gilgit Manuscripts: An Ancient Buddhist Library in Modern Research", in Harrison and Hartmann (2013, 79-135).

- Kuo, Liying 2006: “Inscriptions on “stone banners” (shichuang 石幢): Text and Context”, in 『中国石刻文献研究国際ワークショップ』報告集、pp. 37–51。<<http://coe21.zinbun.kyoto-u.ac.jp/sekkoku2006.pdf>>
- Matsuda, Kazunobu 2013: “Japanese Collections of Buddhist Manuscript Fragments from the Same Region as the Schøyen Collection”, in Harrison and Hartmann (2013, 165–169).
- Melzer, Gudrun 2007: “The Gilgit manuscript of the Sarvagatipariśodhana-uṣṇīṣavijayā kept in the Miho Museum”: 松田 (2007, 107–116).
- Müller, F. Max and Bunyiu Nanjio (ed.) 1884: *The Ancient Palm-Leaves: containing the Pragñā-Pāramitā-Hridaya-Sūtra and the Ushnīsha-Vigaya-Dhāraṇī; with an appendix by G. Bühler*, Anecdota Oxoniensia Aryan series 1.3, Oxford: Clarendon Press.
- Schopen, Gregory 2009: “On the absence of Urtext and Otiose Ācāryas: Buildings, Books, and Lay Buddhist Ritual at Gilgit”, in *Érire et transmettre en Inde classique*, ed. by Gérard Colas et Gerdi Gerschheimer, Paris: École française d’Extrême-Orient, pp. 1754–1760.
- Schopen, Gregory 2012: “Redeeming Bugs, Birds, and Really Bad Sinners in Some Medieval Mahāyāna Sūtras and Dhāraṇīs”, in *Sins and Sinners: Perspectives from Asian Religions*, ed. by Phyllis Granoff and Koichi Shinohara, Leiden: Brill, pp. 276–294.
- Skilling, P. 2009 (2005): “Pieces in the Puzzle: Sanskrit Literature in Pre-modern Siam”, in *Buddhism and Buddhist Literature of South-East Asia: Selected Papers by Peter Skilling*, ed. by Claudio Cicuzza, Bangkok and Lumbini: Fragile Palm Leaves, pp. 27–45.

その他テキストデータベースとして

CBETA 電子佛典集成 <<http://tripitaka.cbeta.org>>

GRETIL—Göttingen Register of Electronic Texts in Indian Languages and related Indological materials from Central and Southeast Asia <<http://gretil.sub.uni-goettingen.de>>

SAT 大正新脩大藏經テキストデータベース <<http://21dzk.l.u-tokyo.ac.jp/SAT/ddb-bdk-sat2.php>>

を利用した。

## 6. Appendix : 『仏頂尊勝陀羅尼經』 B タイプ試訳 (陀羅尼の前まで)

*Ārya-sarvatathāgatoṣṇīṣavijayā nāma dhāraṇī kalpasahitā*: Müller and Nanjio (1884, 34)

// namo bhagavatya āryasarvatathāgatoṣṇīṣavijayāyai// evaṃ mayā śrutam ekasmin samaye bhagavān sukhāvatyaṃ dharmasamgītimahāguhyāprādāvare>(\*-guhyaprāsādavare) sukhopaviṣṭo bhagavān amitāyus tathāgato rhan samyaksambuddha āryāvalokiteśvaraṃ bodhisattvaṃ mahāsattvaṃ āmantrayate sma// ā samti kulaputra duḥkhitāḥ sattvā nānāvādhīparipīḍitā maṃdāyuskās teṣāṃ arthāyemāṃ sarvatathāgatoṣṇīṣavijayāṃ nāma dhāraṇīm dhāraya parebhyas ca vistareṇa samprakāśaya paryāyaskamdhāṃ upādāyeti/ athāryāvalokiteśvaro bodhisattvo mahāsattva utthāyāsanāt kṛtāmjalipūṭo bhūtvā bhagavaṃtam etad avocat/ deśayatu bhagavān sarvatathāgatoṣṇīṣavijayāṃ nāma dhāraṇīm deśayatu sugataḥ/ atha khalu bhagavān sarvāvaṃtaṃ parśadmaṃdalam avalokya samantāvalokīśriyaṃ nāma samādhiṃ (samādhi) samāpadyemāṃ sarvatathāgatoṣṇīṣavijayāṃ nāma dhāraṇīm bhāṣate sma//

『佛說一切如來烏瑟膩沙最勝總持經』(大正藏 No. 978 法天譯)

如是我聞。一時佛在極樂佛刹大善法堂中。安庠而坐。爾時無量壽如來應正等覺。告聖觀自在菩薩摩訶薩言。善男子所有一切衆生。疾病苦惱及短壽者。爲利益彼故。所有一切如來烏瑟膩沙最勝總持法門。若人受持讀誦。速得無病長壽安樂即時觀自在菩薩摩訶薩。從座而起合掌恭敬。白佛言世尊。我今樂聞此一切如來烏瑟膩沙最勝總持法門。善誓善說。爾時世尊觀察大會人天衆已。入普照吉祥三摩地。從定出已。說此一切如來烏瑟膩沙最勝總持法門曰。

聖一切如来仏頂尊勝仏母に帰依し奉る。

かくのごとく私は聞いた。ある時世尊は極楽(Sukhāvātī)の法誦大秘最勝樓(Dharmasamgīti-mahāguhyaprāsādvāra)において安楽に座していた。世尊・無量寿(Amitāyus)如来・応供・正等覚者は、聖観自在(Ārya-Avalokiteśvara)菩薩大士に告げたのであった。

「ああ、善男子よ、衆生たちは苦しみ、病に悩まされ、短命である。彼らのために、この『一切如来仏頂尊勝』という名前の陀羅尼を保持しなさい。そして他の人たちに詳しく説き明かしなさい。法門の集まり(paryāya-skandha)を与えなさい」と。

すると聖観自在菩薩大士は、座から立ち上がると、合掌して世尊にこのように述べた。

「教示下さい、世尊よ、『一切如来仏頂尊勝』という名前の陀羅尼を。教示下さい、善逝よ。」

すると、実に世尊は、集会全体を見渡して、普照吉祥(Samantāvalokaśrī)という名前の三昧に入って、この『一切如来仏頂尊勝』という名前の陀羅尼を語ったのであった。

## 7. 諸訳対照テキスト

## §0 序：六成就文

サンسكريット写本に欠

{*evaṃ mayā śrutam ekasmin samaye bhagavān śrāvastyāṃ viharati sma jetavane 'nāthapiṇḍadasyārāme mahatā bhikṣusaṃghena sārđham arđhatrayodaśabhir bhikṣuśatair mahatā ca bodhisattvasaṃghena dvādaśabhir bodhisattvasahasraiḥ.*}

\*この節は Miho Museum 所蔵サンسكريット写本 (Ms.) には存在しない。梵本原典に存在していた可能性は低い。經典冒頭の定型的フレーズであり、下に示す大乘經典等から相当する梵文はほぼ全てを上のような形で推定できる。

## 参照テキスト

*Cf. The Smaller Sukhāvataṅgyūha* (p. 92): *evaṃ mayā śrutam | ekasmin samaye bhagavān śrāvastyāṃ viharati sma jetavane 'nāthapiṇḍadasyārāme mahatā bhikṣusaṃghena sārđham arđhatrayodaśabhir bhikṣuśatair abhijñātābhijñātaiḥ sthavirair mahāśrāvakaiḥ sarvair arhadbhiḥ |*

*Cf. Ajitasenavyākaraṇam* (p. 103): *evaṃ mayā śrutam ekasmin samaye bhagavān śrāvastyāṃ viharati sma jetavane anāthapiṇḍadasyārāme mahatā bhikṣusaṃghena sārđham arđhatrayodaśabhir bhikṣusahasraiḥ / ... tadyathā saḥacittotpādadharmacakrapravartanena ca bodhisattvena mahāsattvena anikṣiptadhureṇa ca bodhisattvena mahāsattvena maitreyeṇa ca bodhisattvena mahāsattvena avalokiteśvareṇa ca bodhisattvena mahāsattvena mahāsthāmaprāptena ca bodhisattvena mahāsattvena / evampramukhair dvātriṃśatā bodhisattvasahasraiḥ /*

写本転写 Ms., p. 107: 1 recto

—blank—

\* Ms. の第 1 葉の片面は空白面である。この面が本来の表面で、何らかの文書が書写されていたという可能性は否定できない。当該 Ms. のような樺皮写本は数枚の樺皮を貼り合わせたものであり、表と裏が剥離してしまうことがあるからである。しかしながら、本写本の場合、ここに經典冒頭の定型句である六成就文が書写されていた可能性は低い。

この空白面について、Melzer (2007, 107) は裏面 (verso) と考えている。この写本の他の葉では、葉番号のある面が表面 (recto) となっている。この第 1 葉は文字のある面の左余白に葉番号「1」が記されていることから、そちらが表面であって、空白面の方が裏面と判断したものと思われる。しかしながら、空白面が写本の途中に挿入されるとは考えにくいので、この第 1 葉の表面は全くの空白か、あるいはタイトルのみ記載であったため、現在文字のある面は裏面ではあるにもかかわらず、葉番号「1」が記されたと考える方が自然であろう。

もしもこの葉番号が記されていなければ、表面がかつては存在し、そこに六成就文が書かれたいたが、現在は失われてしまった、と想定することも可能であったであろう。しかし、この数字の 1 の存在によって、その可能性は否定される。もし、その失われた面に現存のテキストに先行する「如是我聞」で始まる六成就文が書かれていたとすると、そちらに葉番号が書かれていたはずであるからである。

チベット訳 [T1: P. No. 198: 226b5-; D. No. 597: 243b1-]

rgya gar skad du / ārya-sarvadurgatipariśodhani-uṣṇīṣavijaya nāma dhāraṇī<sup>1</sup> / bod skad du / 'phags  
pa ngan 'gro thams cad yongs su sbyong ba gtsug tor nram par rgyal ba zhes bya ba'i gzungs /  
sang s rgyas dang byang chub sems dpa' thams cad la phyag 'tshal lo //

1. D: dhāraṇī

\*チベット訳にも六成就文はない。タイトル表記に続いて「仏陀と一切の菩薩に帰依します」という帰敬文が見られる。

---

漢訳 [C1: Taisho No. 967, 349c-]

如是我聞。一時薄伽梵在室羅筏、住誓多林給孤獨園、與大苾芻衆千二百五十人俱、又與諸大菩薩僧萬二千人俱。

---

和訳

\*参考のため、漢訳からの翻訳を記しておく。

このように私は聞いた。ある時世尊はシュラーヴァステイー市（舎衛城）にある、ジェータ林のアナータピンダダ長者の園（給孤独園）に、千二百五十人の比丘よりなる大僧団（サンガ）、および一万二千人の菩薩の大僧団とともに滞在していた。

## § 1 三十三天の善住天子への予言

atha trāyastriṃśeṣu devabhavaneṣu {sudharmāyām devasabhāyām supratīṣṭhito nāma devaputro maha}tā devavimānena mahatā devaparibhogena mahatāpsa{ragaṇena kṛḍati ramate paricāra}yati.

sa ca divyaṃ bhogam anubhūya, sa ca rātryā{ṃ} śabdāṃ aśrau{ṣīt: “saptame divase supratīṣṭhitaś ca} devaputraḥ kālāṃ kariṣyati. sa ca kālāṃ kṛtvā jambudvī{pe upapatsyate, saptabhir gatibhir duḥkham a}nubhūyate. saptabhir gatibhir duḥkham anubhūya {narakeṣūpapatsyate. yadi kadācit manuṣyalokajanmaṃ pra}tilabhate, daridrāś ca jātyandhagat{ayaś ca bhaviṣyanti}”.

## 参照テキスト

*Cf. Sarvatahāgatośṇīṣasītāpatatrā nāma parājītā pratyāṅgirā mahāvidyārājñī* (p. 147): evaṃ mayā śrutam ekasmin samaye bhagavān deveṣu trāyastriṃśeṣu viharati sma / sudharmāyām devasabhāyām mahatā bhikṣusamghena mahatā ca bodhisattvasamghena bhikṣusataih śakreṇa ca devatānāmindreṇa sārddham / tatra khalu bhagavān prajñapta evāsane niṣadya uṣṇīṣam avalokitaṃ nāma samādhiṃ samāpadyate sma / samanantarasamāpannasya bhagavata uṣṇīṣamadhyādīmāni mantrapadāni niścaranti sma /

*Cf. Aṣṭasāhasrikā Prajñāpāramitā* (p. 241): tatra ca dharmodgato bodhisattvo mahāsattvaḥ saparivāro ṣṭaṣaṣṭayā strīśahasraiḥ sārddham pañcabhiḥ kāmagaṇaiḥ samarpitaḥ samanvaṅgībhūtaḥ kṛḍati ramate paricārayati /

*Cf. Bhaiṣajyaguruvaidūryaprabhārājasūtra* (p. 168): yadi kadācit manuṣyajanmapratilābhaṃ pratilapsyante, te nityakālāṃ nīcakuleṣu upapatsyante, dāsatve ca paravaśagatā bhaviṣyanti/  
*Cf. Ms., 1v2: saptame divase supratīṣṭhitaś ca devaputraḥ kālāṃ kariṣyati.*

## 写本転写 Ms., p. 107: 1 verso\*

- 1 © ath. tra[y]. [s]tr̥ [ś]. + d[e]vabh. v. n. ṣu ++ .[m]. [y]. ... + ///
- 2 tā devavimānena [m]. [h]. tā devaparibhogena ° ma[ha]tā[psa] .. ///
- 3 yati ° || sa ca divyaṃ [bh]. .. m anubhūya sa ca rātryā śabdāṃ a[śrau] ///
- 4 + devaputra kālāṃ kariṣyati ° sa ca kālāṃ kṛtvā jambudvī ///
- 5 nubhūyate ° sa .[t]. bh[i] .gatibhi○r d. ḥkham anubhūya [n]. ///
- 6 I +++ ..ṃ + [ti]labhate ° d[a]○ridr[ā]ś ca jātyandhagat. ///

Melzer (2007, 107) reads: 1v6: dā○ridrāś

\* Melzer (2007, 107) は recto (表葉) と見ている。Ms. の他の葉では表葉の左マージンに葉番号がある。ただし、ここは第 1 葉であるため、テキスト筆写の始まる裏葉に葉番号が振られているものとみられる。

チベット訳 [T1: P. 226b8-; D. 243b2-]

de nas lha'i bu shin tu brtan pa zhes bya ba zhig sum cu rtsa gsum gyi lha rnam kyi nang chos bzang<sup>1</sup> lha'i mdun<sup>2</sup> sa na gnas te / lha'i gzhal yas khang chen po na lha'i longs spyod chen po dang<sup>3</sup> lha'i bu mo'i tshogs chen pos bskor nas rtse dga' zhing dga' mgur spyod de / lha<sup>4</sup>'i longs spyod myong ba las mtshan mo sgra zhig thos pa : lha'i bu shin tu brtan pa zhag bdun gyi nyin par 'chi ba'i dus byed de / de 'chi ba'i dus byas nas kyang 'dzam bu'i gling du skyes te / de<sup>5</sup> yang 'gro ba bdun po myong bar 'gyur ro // 'gro ba bdun po myong nas sems can dmyal bar skye bar 'gyur ro // brgya la nam zhig mir skyes par gyur na yang der dbul por 'gyur zhing dmus long du 'gyur ro // zhes des thos so //

1. D: bzangs 2. D: 'dun 3. D: dang / 4. D: de lha 5. D: der

漢訳 [349c28-]

爾時三十三天於善法堂會有一天子名曰「善住」、與諸大天遊於園觀、又與大天受勝尊貴、與諸天女前後圍繞歡喜遊戲、種種音樂共相娛樂、受諸快樂。

爾時善住天子即於夜分聞有聲言：「善住天子却後七日命將欲盡。命終之後、生贍部洲受七返畜生身。即受地獄苦。從地獄出希得人身、生於貧賤、處於母胎即無兩目。」

和訳

さて、そのとき、三十三天における、スダルマーという神々の会処（善法講堂）に、善住（Supraṭiṣṭhita）という名の天子がいて、大きな天の乗り物によって遊び、大きな天の享樂を樂しみ、大きな天女の集まりとともに歡樂していた。

そして彼は神々の享樂を経験していたが、また、彼は夜中に声を聞いたのであった。「七日目に、善住天子は寿命尽きるであろう。そして彼は、寿命が終わるとジャンプ洲に生まれ、七つの境涯（悪道）によって苦を経験し、七つの境涯によって苦を経験すると、地獄に生まれるであろう。いつか、人間界における生を得るとしても、彼にはいくつもの貧困や盲目の境遇があるだろう。」

## §2 帝釈天に相談する善住天子

{atha sa devaputras taṃ śabdāṃ śrutvā bhītas trastaḥ} udvignaḥ saṃharsītaromakūpajātaḥ {... yena śakro devānāṃ indraḥ tena upasaṃkrāntaḥ. upasaṃkramya} saḥ śakraṃ devānāṃ indraṃ pādābhiva{ndanaṃ kṛtvā karuṇakarūṇaṃ hā hā iti paridevamānaḥ śakraṃ devānā}m indraṃ etad avocat: “śṛṇu deve{ndra, ...} divyaparibhogayā sukhasamarpitāḥ apsara{aṇena sārđhaṃ kṛđān raman paricārayan śabdāṃ aśrauṣaṃ: sapta}me divase supraṭiṣṭhitaś ca devaputraḥ kālaṃ kar{iṣyati. sa ca kālaṃ kṛtvā jaṃbudvīpe upapatsyate, saptabhir gatibhir duḥkhaṃ}anubhūyate. saptabhir gatibhir <duḥkhaṃ> anubhūya narake{śūpapatsyate. yadi kadācit manuṣyalo}kajanmaṃ pratilabhate, daridrāś ca jātyandhagatay{aḥ bhaviṣyantīti. devendra, tebhyo 'haṃ katham parimucyeyam.”}

## 参照テキスト

*Cf. Saddharmapuṇḍarīkasūtra* (p. 72): atha khalu daridrapuruṣas tasyāṃ velāyāṃ bhītas trastaḥ saṃvignaḥ saṃhṛṣṭaromakūpajātaḥ udvignamānaso dāruṇamārtasvaram muñced āraved viravet |

*Cf. Divyāvadāna, Sūkariāvadāna* (p. 120): atha śakro devānāṃ indraḥ kutūhalajāto yena bhagavāṃṣ tenopasaṃkrāntaḥ/ upasaṃkramya bhagavataḥ pādaḥ śirasā vanditvā ekānte niṣaṇṇaḥ/ ekāntaniṣaṇṇaḥ śakro devānāṃ indro bhagavantam idam avocat — ihāṃhaṃ bhadanta adrākṣamanyatamaṃ devaputraṃ cyavanadharmāṇaṃ pṛthivyāṃ āvartamānaṃ karuṇakarūṇaṃ ca paridevamānaṃ—hā mandākini, hā puṣkiriṇi, hā vāpi, hā caitraratha, hā pārūṣyaka, hā nandanavana, hā miśrakāvana, hā pāriyātraka, hā pāṇḍukambalāśilā, hā devasabhā, hā sudarśana iti/ tam enam evaṃ vadāmi—kasmāt tvam mārṣa atyartham śocasi paridevase krandasi urasi tāḍayasi saṃmohāpadyasa iti? sa evam āha—eṣo ‘haṃ kauśika divyaṃ sukhaṃ apahāya itaḥ saptame divase rājagṛhe nagare sūkariāvāyāḥ kuḥṣau upapatsyāmi/

*Cf. Divyāvadāna, Dharmarucyavadāna* (p. 157): tataḥ sā vṛddhā kathayati—bhavān evam abhirūpaś ca yuvā ca asmin vayasi taruṇayuvatyā sārđhaṃ śobhethāḥ kṛđān raman paricārayan/ kim eva kāmabhogaparihīnas tiṣṭhasi?

*Cf. Ms.*, 1v4: sa ca kālaṃ kṛtvā jaṃbudvīpe {upapatsyate, saptabhir gatibhir duḥkhaṃ} anubhūyate. saptabhir gatibhir duḥkhaṃ anubhūya {narakeśūpapatsyate.}

*Cf. Bhaiṣajyaguruvaidūryaprabharājasūtram* (p. 168): yadi kadācit manuṣyajanmapratilābhaṃ pratilapsyante, te nityakālaṃ nīcakuleṣu upapatsyante, dāsatve ca paravaśagatā bhaviṣyanti |

*Cf. Bhaiṣajyaguruvaidūryaprabharājasūtram* (p. 166): te mama nāmadheyasya śravaṇena madīyena puṇyānubhāvena ca sarvabhayopadravebhyāḥ parimucyeran |

*Cf. Ratnaketuparivarta* (p. 81): atha mārṣasya pāpīmata etad abhavat / yat tv ahaṃ santoṣavacanena śramaṇagautamaṃ śaraṇaṃ vrajeyam, yad aham ebhyo bandhanebhyāḥ parimucyeyam /

## 写本転写 Ms., p. 107: 1 verso

7 + + + + + [u]dvignasaṃharsītaromakūpajātaḥ ///  
 8 + + + + + [sa]ḥ śakraṃ devānāṃ indraṃ pādābhivava ///  
 9 + + + + + m indraṃ etad avocat\* śṛṇu deve ///  
 2 recto  
 1 divyaparibhogayā sukhasamarpitāḥ apsara[g]. ///  
 2 me divase suprapṭiṣṭhitaś ca devaputra kālaṃ kar[i]. [y]. ///  
 3 ya anubhūyate saptabhir gatibhi-m anubhūya nara[k]e ///  
 4 – kajanmaṃ pratilabhate ° d[a]ridr[ā]ś ca jātyandhagatay. ///

Melzer (2007, 107) reads: 2r3 gatibhim; 2r4 daridrāś

チベット訳 [T1: P. 227a1-; D. 243b5-]

de nas lha'i bu des sgra de thos nas 'jigs skrag sngangs<sup>1</sup> te spu zing zhes byed par gyur nas / de rings pa rings par lha'i dbang po brgya byin ga la ba der song ste phyin nas / de nas lha'i dbang po brgya byin gyi rkang pa la phyag tshal te / brtaps par smra zhing / de kyi hud kyi hu dces smre sngags 'don bzhin du lha'i dbang po brgya byin la 'di skad ces smras so //

lha'i dbang po gsan du gsol // lha'i dbang po bdag dang<sup>2</sup> lha'i bu mo'i tshogs kyis skor<sup>3</sup> te / lha'i longspyod kyi dga' bas rtse zhing bde ba myong ba las sgra zhig thos pa: lha'i bu shin tu brtan pa zhag bdun na 'chi ba'i dus byed par 'gyur te / 'dzam bu'i ling du skye bar 'gyur ro // der yang 'gro ba bdun myong nas sams<sup>4</sup> can dmyal bar skye bar 'gyur ro // brgya la nam zhig mir skyes par gyur na yang der de dbul por 'gyur zhing dmus long du<sup>5</sup> 'gyur ro / ' zhes thos na / lha'i dbang po de la bdag gis ji ltar bsgrub par bgyi/

1. D: dngangs 2. D: deng 3. D: bskor 4. D: sems 5. D: yang

漢訳 [350a08-]

爾時善住天子聞此聲已、即大驚怖身毛皆豎、愁憂不樂。速疾往詣天帝釋所、悲啼號哭、惶怖無計。頂禮帝釋二足尊已、白帝釋言：「聽我所說。我與諸天女共相圍繞受諸快樂、聞有聲言：『善住天子却後七日命將欲盡。命終之後、生贍部洲七返受畜生身。受七身已、即墮諸地獄。從地獄出希得人身、生貧賤家而無兩目。』天帝、云何令我得免斯苦？」

和訳

{さて、その天子は、その声を聞くと恐れ、おののき、} 悲しみ、恐怖に鳥肌を立て、{急いで神々の主たるシャクラ（帝釈天）のいる所に行った。そこに行くと、} 彼は、帝釈天に対して足への頂礼を {なし、大いに悲しみ、「ああ、ああ」と声を上げ、嘆きながら帝釈天にこう述べた。

「神々の主よ、聞いて下さい。{私が} 天の享楽による幸せを受けて、天女の {集まりとともに遊び、楽しみ、歓楽していると、[次のような] 声を聞いたのです。} 『七日目に、善住天子は、寿命尽きるであろう。{そして彼は、寿命が尽きるとジャンプ洲に生まれて、七つの境涯によって苦を} 経験し、七つの境涯によって苦を経験すると、諸々の地獄に生まれるであろう。{もし、いつか} 人間界における生を得るとしても、いくつもの貧困や盲目の境遇があるだろう。』と。帝釈天よ、これらから私はどのようにしたら、解放されるのでありましようか？」

## §3 帝釈天の反応

atha śakro devānām indraḥ supratīṣṭhitasya de{vaputrasya ...} prāptam” iti sa cānuvicintya, “katamāni saptagatay{aḥ ...} sa muhūrtaṃ tūṣṇīm āsthāya samāpadya paśyati: “sa{pta gatayaḥ nāma sūkarah śvānaḥ}jambukaḥ markaṭīḥ āśīviṣaḥ gr̥dhraḥ kākāḥ {ca. tāsu saptagatiṣv atyantāśucibhakṣa} ṇ<a>m} anubhūyate” ||

{atha śakro devānām indraḥ tāḥ sapta gatīḥ dṛṣṭvā, “aho bata ayaṃ devaputraḥ anubhavati ma} hati dāruṇāni hṛdayaduḥkhāni”. {anuvicintya...} “ko ’syābhisamparāyaḥ, kā gatīḥ, kaḥ parāyaṇaḥ, anyatra {tathāgatārhasamyaksambuddhā”...}

## 参照テキスト

*Cf. Divyāvādāna, Sūkarikāvādāna* (p. 120): eṣo ‘haṃ kauśika divyaṃ sukham anubhūya itaḥ saptame divase rājagṛhe nagare sūkaryāḥ kukṣau upapatsyāmi/ tatra mayā bahūni varṣāṇy uccāraprasrāvāḥ paribhoktavya iti/

*Cf. Saddharmapuṇḍarīkasūtra* (p. 66):

cyutvā manuṣyeṣu avīci teṣāṃ pratiṣṭha bhoṭī paripūrṇakalpāt /  
tataś ca bhūyo ’ntarakalpa nekāṃś cyutās cyutās tatra patanti bālāḥ // Saddhp\_3.114 //

yadā ca narakeṣu cyutā bhavanti tataś ca tiryakṣu vrajanti bhūyaḥ /  
sudurbalāḥ śvānaśrgālabhūtāḥ pareṣa krīḍāpanakā bhavanti // Saddhp\_3.115 //

manuṣyabhāvatvam upetya cāpi andhatva badhiratva jaḍatvam eti /  
parapreṣya so bhoṭī daridra nityaṃ tatkāli tasyābharaṇānimāni // Saddhp\_3.132 //

*Cf. Karuṇapuṇḍarīkasūtra* (p. 273): yadā buddhakṣetraparamāṇurajaḥsameṣu daśasu dikṣv anyeṣu lokadhātuṣu sattvair evaṃrūpaṃ karmākṣiptaṃ syāt, ye ca manuṣyāndhabadhirā ajihvākā aḥastakā apādakāḥ smṛtipramuṣṭacittair utpādyitavyaṃ aśuci bhakṣayitavyaṃ, peyālaṃ yathā pūrvoktaṃ /

*Cf. Bodhicaryāvatāra* (9.164): aho batātīśocyatvam eṣāṃ duḥkhaughavartinām /  
ye nekṣante svadauhṣthityam evaṃ apy atiduḥṣthitāḥ //

*Cf. Saṃghāṣṭra* (169): kā gatir asmābhiḥ kaḥ parāyaṇaṃ bhaviṣyati /

*Cf. Aṣṭasāhasrikāprajñāpāramitā* (p. 234): tathāgatasamanvāhṛtasya hi subhūte bodhisattvasya mahāsattvasya nānyā gatīḥ pratikāṅkṣitavyā anyatrānuttarāyāḥ samyaksambodheḥ /

## 写本転写 Ms., p. 107–8: 2 recto

5 II atha śakkro devānām indra ○ supratīṣṭhitasya de .. ///  
6 prāptam iti ○ sa cānuvicintya katamāni sapta gata[y]. ///  
7 sa muhūrtaṃ tū[ṣṇ]īm āsthāya samāpa.ya paśyati ○ sa ///  
8 jambukaḥ [ma]. [k]. tīḥ āśīviṣaḥ gr̥ddhraḥ kākāḥ .. ///  
9 nām anubhū..te ||.....o.e.ānām i++///

2 verso

1 hati dāruṇāni hṛdayaduḥkhā[n]. [a] ... [c]. ntya ○ ati .. ///  
2 ko syābhisaparāyaḥ k. ga[t]i ○ kaḥ parāyaṇaḥ anyatr. ///

Melzer (2007, 108) reads: 2v1-h/māti; hṛdayad. ḥ[kh]ā[n].; 2v2 k[e] ga .. [nā]ḥ; atya .r.

チベット訳 [T1: P. 227a5-; D. 244a1-]

de nas lha'i dbang po brgya byin gyis lha'i bu shin tu brtan pa'i tshig de thos nas shin tu ngo mtshar du 'dzin par gyur te /lha'i bu 'dis 'gro ba bdun po gang dag myong bar 'gyur snyam du sems shing cang mi smra bar 'dug pa dang / 'gro ba bdun ni phag gi skye gnas dang / khyi dang wa dang / spre 'u dang / sbrul gdug pa dang bya rgod dang bya khwa ste / 'gro ba bdun po de dag shin tu mi gtsang ba'i'1 za ba myong bar 'gyur ba mthong ngo //

de nas lha'i dbang po brgya byin gyis 'gro ba bdun po de dag mthong nas 'di snyam du e ma lha'i bu 'di sdug bsngal mi bzad pa chen po myong bar 'gyur na / de bzhin gshegs pa dgra bcom pa yang dag par rdzogs<sup>2</sup> sangs rgyas ma gtogs par de'i skyabs dang / rten dang dpung gnyen du 'gyur ba su yod snyam<sup>3</sup> bsams so //

1. D: ba 2. D: pa 'i 3. D: snyam du

漢訳 [350a16-]

爾時帝釋聞善住天子語已、甚大驚愕、即自思惟“此善住天子受何七返惡道之身？”爾時帝釋須臾靜住、入定諦觀、即見善住當受七返惡道之身。所謂猪・狗・野干・獼猴・蟒蛇・烏・鷲等身、食諸穢惡不淨之物。

爾時帝釋觀見善住天子當墮七返惡道之身、極助苦惱、痛割於心、諦思無計。“何所歸依？唯有如來・應・正等覺令其善住得免斯苦”。

和訳

その時、帝釈天は善住天子の「その言葉を聞くと、「大変なことが」到来している」と「考えた」。そして彼は「どのような七つの境涯が「経験されるのだろうか」と心配して、彼は瞬時に沈黙し、入定して観察した。「七つの「境涯とは、豚、狗、」ジャッカル、雌ザル、毒蛇、ハゲタカ、カラスである。「その七つの境涯では、大変に不浄な食事を」経験するのである」[と]。

さて、帝釈天は、「それらの七つの境涯を観察し、「ああ、この天子は」大きな耐え難い心痛を「経験する」と」心配して、「何が彼の帰依処、何が帰赴、誰が拠り所となるであろうか。「如来・応供・正等覚を除いては」と考えた」。

## §4 帝釈天、釈尊の元へ

{atha śa}kro devānām indrah tasyā rātryā{h} pūrvayāmena nānāpuṣpa{mālyadhūpagandhavastra} vibhūṣaṇam gr̥hītvā yena jetavane vihāre yena bh{agavāms tenopasaṃkrānto} bhagavataḥ pādaśīrasābhivandya saptabhiḥ prad{akṣiṇīkr̥tya, pūjāsatkāram akā}rṣīt, bhagavataḥ purataḥ <niṣaṇṇaḥ> |  
 supraṭiṣṭhitasya {devaputrasya sapta gatīḥ bhaga}vate nivedayāmāsa. samanantaraniveditā ca ś{akraṇa devānam indreṇa iyaṃ} vāk, anena bhagavatā uṣṇīsamūrdhnā nānāraśm{ayo niścānti. daśasu dikṣv sa}rvalokadhātuṣu avabhāsya, punar evāgatya bha{gavantam triḥ pradakṣiṇīkr̥tya bhaga}vataḥ mukhadvāram praviṣṭā.

<bhagavāms> tam smitam akaro{t. śakraṃ devānām indram etad avocat:}

## 参照テキスト

Cf. Ms., 5r3-4: puṣpadhūpagandhamālyavilepanācchādanacchatradhvajapatākair vastrābharāṇair alamkr̥tya kariṣyanti

Cf. Ms., 5r7-9: yena bhagavatā tenopasaṃkrāntā, bhagavate nānā divyaṃ puṣpavastrālamkāradhūpaiḥ pūjāsatkāram akārṣīt. saptabhiḥ pradakṣiṇīkr̥tya bhagavataḥ pādāyor nipatyaitad avocat

Cf. *Divyāvādāna, Sūkarikāvādāna* (p. 120): atha śakro devānām indrah kutūhalajāto yena bhagavāms tenopasaṃkrāntaḥ/ upasaṃkramya bhagavataḥ pādaśīrasā vanditvā ekānte niṣaṇṇaḥ/

Cf. *Aṣṭasāhasrikā Prajñāpāramitā* (p. 28): evam ukte śakro devānām indro bhagavantam etad avocat - yo bhagavan kulaputro vā kuladuhitā vā imāṃ prajñāpāramitāṃ likhitvā pustakagatāṃ kṛtvā sthāpayet, enāṃ ca divyābhiḥ puṣpadhūpagandhamālyavilepanacūrṇacīvaracchatradhvajaghaṇṭāpatākābhiḥ samantāc ca dīpamālābhiḥ, bahuvīdhābhiḥ ca pūjābhiḥ satkuryāt gurukuryāt mānayet pūjayet arcayet apacāyēt...

Cf. *Saddharmapuṇḍarīkasūtra* (p. 36; p. 253): samanantarā ceyam bhagavatā vāk,

Cf. *Saddharmapuṇḍarīkasūtra* (p. 4): atha khalu tasyāṃ velāyāṃ bhagavato bhrūvivarāntarād ūrṇakośād ekā raśmir niścāritā.

Cf. *Saddharmapuṇḍarīkasūtra* (p. 180): ye te samantato daśasu dikṣv anyonyāsu lokadhātuṣu samnipatitāḥ, nānāratnavṛkṣamūleṣu siṃhāsanopaviṣṭāḥ

Cf. *Aṣṭasāhasrikā Prajñāpāramitā* (p. 226): atha khalu bhagavāms tasyāṃ velāyāṃ smitam prādur akārot / dharmatā khalu punar eṣāṃ buddhānāṃ bhagavatām - yadā smitam prāduḥ kurvanti, atha tadā nānāvārnā anekavārnā raśmayo bhagavato mukhadvārān niścānti - tadyathā nīlapītalohitāvadātāmāñjiṣṭhasphaṭīkarajatasuvarṇavarṇāḥ / te niścārya anantāparyantān lokadhātūn ābhayā avabhāsya yāvad brahmalokam abhyudgāmya punar eva pratyudāvṛtya bhagavantam triḥ pradakṣiṇīkr̥tya bhagavato mūrdhany antar dhīyante //

## 写本転写 Ms., p. 108: 2 verso

2 ko syābhisaparāyaḥ k. ga[t]i ° kaḥ parāyaṇaḥ anyatr. /// (śa)  
 3 kkro devānām indrah tasya rātryā pūrvayāmena nānā[plu]ṣpa[m]. ///  
 4 ravibhūṣaṇam gr̥hītvā yena ○ jetavane vihāre yena [bh]. ///  
 5 bhagavataḥ pādaśīrasābhi○vandya saptabhiḥ prad. ///  
 6 rṣīt ○ t\* bhagavataḥ purataḥ niṣaṇṇam || supraṭiṣṭhita ///  
 7 vate nivedayāmāsa ° samanantaraniveditā ca [ś]. ///  
 8 vāk\* || anena bhagavatā uṣṇīsamūrdhnā nānāra[śm]. ///  
 9 rvalokadhātuṣ[u]-r avabhāsya punar ev[ā]gatya bha + ///  
 3 recto  
 1 vataḥ mukhadvāram praviṣṭā bhagavan tam smitam akaro+++++

Melzer (2007, 108) reads: 2v7 [ca ta]m; 2v9 lokadhātu .. r

チベット訳 [T1: P. 227a58-; D. 244a4-]

de nas lha'i dbang po brgya byin nub mo de'i srod la spos dang / me tog dang bdug pa sna tshogs dang / gos dang rgyan sna tshogs la sogs pa khyer nas bcom ldan 'das ga la ba der song ste phyin pa dang / bcom ldan 'das kyi zhabs la mgo bos phyag 'tshal te lan bdun bskor ba byas te<sup>1</sup> /<sup>2</sup> bcom ldan 'das kyi spyen sngar 'dug nas lha'i bu shin tu brtan pa'i 'gro ba bdun po dag bcom ldan 'das la zhib tu gsol to //

lha'i dbang po brgya byin gyis 'gro ba bdun po de dag gsol ma thag tu / de nas bcom ldan 'das kyi gtsug tor nas 'od zer sna tshogs byung ste / des phyogs bcu'i 'jig rten gyi khams kyi gnas thams cad kun nas snang bar byas te slar log nas bcom ldan 'das kyi zhal gyi sgor zhug so //

de nas bcom ldan 'das kiyis 'dzum pa mdzad nas lha'i dbang po brgya byin la 'di skad ces bka' stsal to //

1. D: nas 2. D *ad.* mchod pa chen po byas te /

漢訳 [350a24-]

爾時帝釋即於此日初夜分時、以種種花鬘・塗香・末香、以妙天衣莊嚴執持往詣誓多林園。於世尊所到已、頂禮佛足、右繞七匝、即於佛前廣大供養、佛前胡跪而白佛言：「世尊、善住天子云何當受七返畜生惡道之身？」具如上說。

爾時如來頂上放種種光、遍滿十方一切世界已、其光還來、繞佛三匝、從佛口入。佛便微笑、告帝釋言：

和訳

{さて、} 帝釈天は、この日の初夜分に、種々の花 {鬘、塗香、抹香、および、衣服や} アクセサリーを持って、ジェータ林の精舎における {世尊のおられるその所へ赴き}、世尊の両足に頂礼し、七回 {右繞して、供養、恭敬を行い}、世尊の前に座った。

[そして] 善住天子の {七つの境涯について、世尊に} 告げたのであった。すると、帝釈天によって {この} 言葉が告げられるやいなや、この如来により、肉髻 (uṣṇīṣa) の頂上から種々の光が {放たれた。十方の} 一切の世界を照らし出して、再び世尊へと戻り、{三匝してから} 世尊の口に入った。

世尊は彼に微笑した。{そして、帝釈天にこのように語った。}

## § 5.1 陀羅尼の教示

“{asti} devendra, tathāgatamūrdhābhiṣiktasarvagatipariśodhana-uṣṇī{ṣavijayā nāma dhāraṇī, sarvāva}raṇaduḥkhajanmavināśanī sarvanarakatiryakpretayamalokapari{śodhanī ...}dghātanisugata mārgapratīṣṭhāpanī

devendra, sarvagatipariśodhana-uṣṇīṣavijayā nāma dhāraṇī samāśravaṇamātreṇa sarvajjanmapara{mpara}yā anāvaraṇīyaduḥkhanānārūpāṇi janmaparivartam vinaśyanti. pariśuddha{jā}tiḥ pratilabhate. sarvatra jāt<au> jātismaro bhaviṣyati. buddhakṣetrād buddhakṣetram saṃkrāmati. d{eva}lokād devalokam saṃkrā}mati, yāvad dvātrṃśad devabhavanāni gatiḥ. sarvatra ca jāti{smaro} bhaviṣyati.”

## 参照テキスト

Cf. Ms., 4r2: sarvāvaraṇaviśuddhe

Cf. *Bhaiṣajyaguruvidūryaprabhārājasūtra* (p. 167) : saha smaraṇamātreṇa ataś cyutvā punar api manuṣyaloke upapatsyante, jātismarāś ca bhaviṣyanti.

Cf. *Aparimitāyuh-sūtra* (17): ya idam aparimitāyuh sūtram likhīṣyati likhāpayīṣyati sa na kadācin narakeṣūpapadyate na tīryagyonau na yamaloke na akṣaṇeṣu ca kadācid api upapatsyate / yatra yatra janmany upapadyate, tatra tatra sarvatra jātau jātau jātismaro bhaviṣyanti //

Cf. Ms., 6r3: sarvatra jātaya jātismaro bhaviṣyati.

## 写本転写 Ms., p. 108: 3 recto

1 vataḥ mukhadvāram praviṣṭā bhagavan taṃ smitam akaro+++++++++++  
 2 devendra tathāgatamūrdhābhi[ṣ]iktasarvagatipariśodha ... uṣṇī ++++++++  
 3 raṇaduḥkhajanmavināśanī ° sarvanarakatiryakpretayamalokapari[ś]. [dh]. ++++++++  
 4 dghātanī ° sugatamārgapratīṣṭhāpanī devendra sarva[ga]tipariśodhana-uṣṇīṣavijayā nā[ma]  
 5 III dhāraṇī samāśravaṇamā○[t]re[ṇa] sarvajjanmapara[m]p. ... yā anā[va]raṇīyadu[h]khanānā  
 6 rūpāṇi janmaparivartam ○ vinaśyaṃti || pariśuddha + [t]iḥ pratilabhate ° sarvā[tra] jātya jā  
 7 tismaro bhaviṣyati ° buddhakṣetrād buddhakṣetram saṃkrāmati ° d[e]v .[l]o .[ā] ..e +++++ [ma]ti ° yā  
 8 vad dv[ā]trṃśad devabhavanāni gatiḥ sarvatra ca jāti .. + bhaviṣyati +++++ .itamā

Melzer (2007, 108) reads: 3r4 -ṅghatanī; 3r5 -para ... yā; 3r7 ++ [l]o .[ā]

チベット訳 [T1: P. 227b4-; D. 244a7-]

lha'i dbang po gtsug tor nam par rgyal ba zhes bya ba'i gzungs de bzhin gshegs pas spyi bo nas dbang bskur ba / ngan 'gro thams cad yongs su sbyong ba / sgrib pa dang sdug bsngal bar skye ba thams cad 'jig par byed pa / sems can dmyal ba dang / byol song gi skye gnas dang / gshin rje'i 'jig rten thams cad yongs su sbyong ba dang bde 'gro'i lam du 'jog pa yod de /

lha'i dbang po de lta bas na gtsug tor nam par rgyal ba zhes bya ba'i gzungs ngan 'gro thams cad yongs su sbyong ba thos ma thag tu sgrib par 'gyur ba'i sdug bsngal gyi rang bzhin sna tshogs shin tu mang po 'jig par byed do // skye ba yongs su dag pa'i rgyud thos1 par 'gyur ro // tshe rabs thams cad du yang tshe rabs dran par 'gyur ro // sangs rgyas kyi zhing nas sangs rgyas zhing du 'gro bar 'gyur ro // lha'i 'jig rten nas lha'i 'jig rten du 'gro bar 'gyur te / lha'i gnas sum cu rtsa gnyis kyi bar du 'gro bar 'gyur ro //

1. D: thob

漢訳 [350b03-]

「天帝、有陀羅尼名爲“如來佛頂尊勝”、能淨一切惡道、能淨除一切生死苦惱、又能淨除諸地獄・閻羅魔王界・畜生之苦、又破一切地獄、能廻向善道。天帝、此佛頂尊勝陀羅尼、若有人聞、一經於耳、先世所造一切地獄惡業悉皆消滅、當得清淨之身。隨所生處憶持不忘。從一佛刹至一佛刹、從一天界至一天界、遍歷三十三天、所生之處憶持不忘。

和訳

「天帝よ、如來の頭頂に灌頂された、『一切趣清淨仏頂尊勝』(sarvagatipariśodhana-uṣṇīṣavijayā) という名の陀羅尼}がある。障礙たる苦と(再)生}の一切}を除き、地獄・畜生・餓鬼・ヤマ界の一切を淨め、一切の地獄(／ヤマ界)を}破って、善逝の道に向かわせるものである。

天帝よ、『一切趣清淨仏頂尊勝』という名の陀羅尼は、一たび聞くだけで、いかなる生の連続によっても、妨げることのできないような苦しみの様々な姿が、転生して消滅する。清淨なる生を獲得する。いかなる生においても、前生の記憶(jātismara)があるだろう。一仏国土より一仏国土に至り、一天界より一天界に至り、[残りの]三十二天にまで至る。いかなる[生]においても、前生の記憶があるだろう。



チベット訳 [T1: P. 227b8-; D. 244b3-]

lha'i dbang po de brjod ma thag tu tshe zad pa yang tshe phyir nur bar 'gyur ba'i las thob par 'gyur ro // lus dang ngag dang yid kyi las yongs su dag pa bsags pa bde bar reg pa la gnas pas gnas par 'gyur ro / de bzhin gshegs pa thams cad kyang de la gzig<sup>1</sup> so // de dag de la rtag tu rgyun mi 'chad par bsrung ba dang / bskyang<sup>2</sup> pa dang sba bar mdzad par 'gyur ro // byang chub sems dpa' thams cad kyang de la sems par 'gyur /

brjod pa tsam gyis sems can dmyal ba dang / dud 'gro'i skye gnas dang gshin rje'i 'jig rten dang / yi dags kyi yul thams cad skems par 'gyur / rnam par 'jig par 'gyur / rnam par 'thor bar 'gyur rnam par sel bar 'gyur stongs par 'gyur ro // de ltar de la sangs rgyas kyi zhing thams cad dang / lha'i gnas thams cad dang / byang chub sems dpa'i gnas thams cad kyi sgo nmams phye bar 'gyur ro // da<sup>3</sup> gang 'dod pa der 'jug par 'gyur ro //

1. D: gzig 2. D: bskiyab 3. D: de

漢訳 [350b12-]

天帝、若人命欲將終、須臾憶念此陀羅尼、還得增壽。得身口意淨、身無苦痛、隨其福利隨所安隱。一切如來之所觀視、一切天神恒常侍衛、爲人所敬、惡障消滅、一切菩薩同心覆護。

天帝、若人能須臾讀誦此陀羅尼者、此人所有一切地獄・畜生・閻羅王界・餓鬼之苦、破壞消滅無有遺餘。諸佛刹土及諸天宮、一切菩薩所住之門、無有障礙隨意趣入。」  
爾時帝釋白佛言：「世尊、唯願如來、爲衆生說增益壽命之法。」

和訳

天帝よ、[その陀羅尼を] 唱えるやいなや、寿命尽きた状態から天子は再び {長い寿命を得る}。身口意は清浄となり、心は満足し、身体の苦痛 {はなく、快い感觸のする所に安住する}。一切の如來が [彼を] 見守る。そして一切の神々が彼の守護、保護、護衛をなす。そして一切の菩薩の護念するところとなるであろう。読誦されるだけでも、一切の地獄・畜生・ヤマ界から、餓鬼の境遇から、蒸発し、消え去り、離れ、分かたれ、消滅するであろう。一切の仏国土、一切の天界宮、一切の菩薩宮は、すべて善趣への門が開いた状態になるであろう。望むところに入れるのである。



チベット訳 [T1: P. 228a4-; D. 244b7-]

/bcom ldan 'das/ gzungs de bka' stsal du gsol/ sems can thams cad kyi srog la sman gdags pa bshad du gsol/ de nas bcom ldan 'das kiyis lha'i dbang bo brgya byin gyis gsol ba btab pa mkhyen nas gzungs 'di dag bka' stsal to/

namo ratnatrayāya / ① om namo bhagavate sarvatrailokyaprativiśiṣṭāya buddhāya te namaḥ ② tad yathā / om bhrūṃ bhrūṃ bhrūṃ / ③ śodhaya śodhaya / viśodhaya viśodhaya / asamasamanta-avabhāsaspharaṇagati / gaganasvabhāvaviśuddhe / ④ abhiṣiñcantu mām / sarvatathāgatasugatavarāvācana / amṛta-abhiṣekair / mahāmudra / mantrapadaiḥ / āhara āhara / mama ayur-sandharāṇi / ⑤ śodhaya śodhaya / viśodhaya viśodhaya / gaganasvabhāvaviśuddhe / uṣṇīśavijayapariśuddhe / sahasraraśmisaṃcodite / sarvatathāgata-avalokini / śaṭpāramitāparipūraṇi / sarvatathāgatamāte daśabhūmipraṭiṣṭhite / sarvatathāgataḥṛdaya-adhiṣṭhāna-adhiṣṭhite / mudre mudre / mahāmudre / vajrakāyasamhatana / pariśuddhe / sarvakarma-āvaraṇaviśuddhe / ⑥ pratinivartaya / mama ayur-viśuddhe / sarvatathāgatasamaya-adhiṣṭhāna-adhiṣṭhite / om muni muni / mahāmuni / vimuni vimuni / mahāvimuni / mati mati / mahāmati / mamati / sumati / tathātā / bhūtaḥkoṭi / pariśuddhe / ⑦ viśphuṭa / buddhe śuddhe / he he / jaya jaya / vijaya vijaya / smara smara / sphara sphara / sphāraya sphāraya / ⑧ sarvabuddha-adhiṣṭhāna-adhiṣṭhite / śuddhe śuddhe / buddhe buddhe / vajre vajre / mahāvajre / suvajre vajragarbhe / jayagarbhe / vijayagarbhe / vajrajvālagarbhe / vajra-udbhava / vajra-sambhava / vajre vajriṇi / vajram bhavatu / mama śarīraṃ ⑨ sarvasatvānāṃ ca kāyapariśuddhir bhavatu / sadā me sarvagatipariśuddhiś ca / samantāna mocaya mocaya / adhiṣṭhāna / sarvatathāgatāś ca mām samāśvāsayantu / buddhya buddhya / siddhya siddhya / bodhaya bodhaya / vibodhaya vibodhaya / mocaya mocaya / vimocaya vimocaya / śodhaya śodhaya / viśodhaya viśodhaya / samantaraśmipariśuddhe / sarvatathāgataḥṛdaya-adhiṣṭhāna-adhiṣṭhite / mudre mudre / mahāmudre mahāmudre mantrapadaiḥ ⑩ svāhā /

\* 陀羅尼本文はチベット訳本中の梵文テキスト (P. No. 198は乱れがより大きいため、主に D. No. 597に基づくもの) をローマ字転写しておく。読みの異同については資料が煩雑になるのでここでは提示しない。佐々木 (2007b, 134-149) を参照されたい。また、比較の便宜のため、同論文を参照して、可能な範囲で標準的なサンスクリット語綴りに改めている。

漢訳 [350b23-c28; 352a28-b23]

爾時帝釋白佛言。世尊唯願如來為眾生。說增益壽命之法。爾時世尊知帝釋心意之所念。樂聞佛說是陀羅尼法。即說呪曰。

①那莫 薄伽跋帝 啼隸路迦-鉢囉底毘失瑟訶囉 勃陀耶 薄伽跋底 ②怛姪他 唵 ③毘輪陀耶 娑摩-三漫多蟠婆娑-娑破囉拏-揭底-伽訶那-娑婆蟠-秬地 ④阿鼻誑者 蘇揭多-伐折那-阿嚧嚧多毘嚧闍 阿訶羅 阿訶羅 阿瑜-散陀羅尼 ⑤輸馱耶 輸馱耶 伽伽那-毘秬提-烏瑟尼沙-毘逝耶-秬提 娑訶囉囉喝-囉濕弭-珊瑚地帝 薩婆-怛他揭多地瑟訶那-頰地瑟訶帝 慕啞隸 跋折囉-迦耶-僧訶多那-秬提 薩婆伐囉拏-毘秬提 ⑥鉢囉底 爾伐怛耶 阿瑜秬提 薩末耶-阿地瑟訶帝 末禰 末禰 怛闍多-部多-俱胝-鉢唎秬提 ⑦ 毘薩菩訶-勃地-秬提 社耶 社耶 毘社耶 毘社耶 薩末囉 薩末囉 ⑧ 勃陀-頰地瑟訶多-秬提 跋折梨 跋折囉-揭鞞 跋折濫 婆伐都 麼麼 [受持者於此自稱名] ⑨ 薩婆-薩埵那 迦耶-毘秬提 薩婆-揭底-鉢唎秬提 薩婆-怛他揭多-三摩濕婆娑-頰地瑟訶帝 勃陀 勃陀 蒲馱耶 蒲馱耶 三漫多-鉢唎秬提 薩婆-怛他揭多地瑟訶那-頰地瑟訶帝 ⑩娑婆訶

\* 陀羅尼については、より梵本に近いと考えられる宋本(大正 No. 967, 352a-b を適宜 C2, p. 112-3 により修正) に依った。また梵本を基準に可能な範囲で単語を分かち書きしておく。また左ページにはローマ字転写を提示しておく。

和訳

すると世尊は帝釈天の請願を知ってこの陀羅尼を説示した。

「①世尊、三世中 |最も殊勝なるもの、仏陀世尊| に礼したてまつる。②即ち、オーム。③浄めたまえ。平等にして普き光明の |放射により悪趣の深淵の本質を浄化する女尊よ|。④善逝の言葉を持つ人々よ。灌頂し、甘露灌頂によって、持ち来たれ、|持ち来たれ、寿命を担える女尊よ。⑤浄めたまえ、| 浄めたまえ。天空を浄化する女尊よ、仏頂尊勝なる清浄な女尊よ。|千の光線を| 起こした女尊よ。|一切如来の| 加持力によって加持された印契を持つ女尊よ。金剛身の集まりたる清浄なお方よ。一切の障礙と恐怖を浄化するお方よ。⑥転ぜしめたまえ。|寿命を浄化する| 女尊よ。三昧耶に加持されたる女尊よ。宝珠尊よ。宝珠尊よ。真如の本際を完全な浄化した女尊よ。⑦開化した仏智を持つ清浄なる女尊よ、打ち勝て、打ち勝て、勝利せよ、勝利せよ。憶念せよ、憶念せよ。⑧一切諸仏に加持される清浄なる女尊よ。金剛尊よ。金剛尊よ。金剛あれ、私ドーマヤガに。⑨一切衆生を浄化した女尊よ、一切趣を浄化した女尊よ、一切如来の慰撫によって加持される女尊よ。目覚めよ、目覚めよ。目覚めさせたまえ。普く完全に清浄なる女尊よ。一切如来の加持力によって加持された女尊よ。⑩スヴァーハー。」

## § 6.2

“iyam devendra sarvagatipariśodhana-uṣṇīṣavijayā nāma dhāraṇī sarvapāpakarmāvaraṇaviśodhanī, sarvagatigamanadurgatī[vināsanī]. aṣṭāśītibhir, devendra, gaṅgānadīvāluka-koṭīśatasahasrair buddhai[r bhagavadbhir bhāṣit]ādhiṣṭhitānumoditā. mahātathāgatājñānamudrāyām udyātā, sarvasattvānām ku[mārga]durgativināsanārtham, sarvanarakatiryagyoniyamaloka-vimokṣaṇārtham, sarvasaṃkaṭaprapṛtānām duḥkhārṇavapatitānām sattvānām arthāya vimokṣaṇārtham bhāṣitā. alpāyuṣamandabhāgyānām kutsitasattvānām kukāryasaṃprayuktānām sattvānām arthāya jambudvīpe pratiṣṭhāpitā. narakagatīnām [sattvā]nām viśuddhajanmāyusaṃparitānām naṣṭāśāyānām pranaṣṭamārgānām sa[ttvānām a]rthāya iyam dhāraṇī jambudvīpe pratiṣṭhāpitā sattvānām parimokṣaṇārtham.”

## 参照テキスト

Cf. Ms., 3r3: duḥkhajanmavināsanī.

Cf. *Ratnaketu-parivarta* (p. 39): tat kutaḥ / [tad] yathā nāma iyam ratnaketudhāraṇī sarvairatītais tathāgatair arhadbhīḥ samyaksambuddhair bhāṣitāś cādhiṣṭhitā anyonyam anumoditāḥ stutā abhiṣṭutā varṇitāḥ sattvānām duḥkhavipākakarmaparikṣayāya kuśalamūlavivṛddhitāyai /

Cf. *Vasudhārā-dhāraṇī* (p. 44): tat kasya hetoḥ | sarvatathāgatānām hyetad vākyam sarvatathāgataireṣā dhāriṇī bhāṣitā adhiṣṭhitā svamudrikayā mudritā prabhāvītā prakāśitā prakīrtitā anumoditā praśastā saṃvartitā vivṛtānīkṛtā ārocitā svākhyātā sunirdiṣṭā ca sarvasattvānām daridrānām nānāvyaḍhi-paripīḍitānām sarvaduṣṭabhayopadravāṇām cārthāyeti |

## 写本転写 Ms., p. 109: 4 recto

7 te svāhā || iyam devendraḥ sarvagatipariśodhana-uṣṇīṣ. i[ja]yā nāma dhāraṇī sarvapā

8 pakarmāvaraṇaviśodhanī ° sarvagatigamanadurgatī . . . . . aṣṭāśītibhir deve

9 ndra gaṅgānadīvālukaṭīśatasahasrair bud.ai .. + ...[i] .[ā] .i .ādhiṣ.i[t]ā[n]u .odi

4 verso

1 tā mahātathāgatā[j]ñānamudrāyām udyātā : sarvasattvānām ku ++ [durgativi] .. ś. ārtham ° sarvana .. k.

2 tiryagyonī-r-yama[lo]kavimokṣaṇārtham ° sarvasaṃkaṭaprapṛtānām [du]ḥkhārṇavapatitānām satvānām arthāya

3 vimokṣaṇārtham bhāṣitā || alpāyuṣamandabhāgyānām kutsitasattvānām kukāryasaṃprayuktānām satvā

4 nām arthāya jambudvīpe pratiṣṭhāpitā || narakagatīnām ... nām viśuddhajanmāyusa[ṣa] paritānām naṣṭā

5 śāyānām pranaṣṭamārgānām sa○ ++ .. rthāya iyam dhāra ḍ nī jambudvīpe pratiṣṭhāpitā satvānām

6 parimokṣaṇārtham || anuḡrṇnatu ○ devendra iyam dhāraṇī suprat. ṣṭhitasya devaputrasya prakāśayaḥ

Melzer (2007, 109) reads: 4r7 -uṣṇī ... [ja]yā; 4v1 udyātāḥ, -ārtha

チベット訳 [T1: P. 228b6-; D. 245b1-]

lha'i dbang po gtsug tor nram par rgyal ba zhes bya ba'i gzungs / ngan 'gro thams cad yongs su sbyong ba / sdig pa dang<sup>1</sup> las dang /<sup>2</sup> sgrib pa thams cad nram par sbyong ba / bde 'gro'i lam thams cad<sup>3</sup> du 'gro ba dang<sup>4</sup> / ngan 'gro thams cad nram par 'jig par byed pa ni<sup>5</sup> sangs rgyas bcom ldan 'das<sup>6</sup> gang gā'i klung 'bum phrag bye ba phrag<sup>7</sup> brgyad bcu rtsa brgyad kyi bye ma snyed dag gis<sup>8</sup> gsungs pa / byin gyis brlabs pa rjes su yi rang bar mdzad pa / de bzhin gshegs pa thams cad kyi ye shes kyi phyag rgyas btab pa ste / sems can thams cad bde 'ror 'gro bar bya ba dang / ngan 'ror lhung ba rnams bzlog pa dang / sems can dmyal ba dang dud 'gro'i skye gnas dang / gshin rje'i 'jig rten la sogs pa<sup>9</sup> sdug bsngal gyi gnas thams cad du sdug bsngal zhing nyam nga bar gyur pa rnams dang / sdug bsngal gyi rgya mtshor lhung ba'i sems can rnams nram par grol<sup>10</sup> bar bya ba'i phyr gsungs pa'o //

de bzhin du sems can tshe thung zhing skal ba chung ba smad pa dang<sup>11</sup> bsam pa nyams pa dang sems can lam las nyams pa rnams kyi don du gzungs 'di 'dzam bu'i <sup>12</sup>gling du bzhag go //

1. D: / , T2 P, D: pa'i 2. T2 P, D: las kyi 3. T2 P, D om. thams cad 4. T2 P, D om. dang 5. D, T2 P, D: 'di ni 6. T2 P, D om. bcom ldan 'das 7. T2 P, D om. phrag 8. T2 P, D: snyed kiyis 9. T2 P, D: pa'i 10. D: 'grol 11. T2 P, D: / and ad. nram pa sna tshogs pa'i skye bar lhung ba rnams dang 12. T2 P, D: gling du sems can rnams la gzungs 'di dang / phyag brgya dang sngags yongs su gtad pa yin no //

漢訳 [351a01-]

佛告帝釋言：「此呪名“淨除一切惡道佛頂尊勝陀羅尼”。能除一切罪業等障、能破一切穢惡道苦。天帝、此大陀羅尼、八十八殞伽沙俱胝百千諸佛同共宣說、隨喜受持。大日如來智印印之、爲破一切衆生穢惡道苦故、爲一切地獄・畜生・閻羅王界衆生得解脫故、臨急苦難墮生死海中衆生得解脫故、短命薄福無救護衆生、樂造雜染惡業衆生得饒益故。又此陀羅尼、於瞻部洲住持力故、能令地獄惡道衆生、種種流轉生死薄福衆生、不信善惡業、失正道衆生等得解脫義故。」

和訳

「これが、天帝よ、『一切趣清浄仏頂尊勝』という名の陀羅尼であり、一切の悪業の障礙を清浄にするものであり、一切の「善」道へ導き悪道を滅するものである。天帝よ、八十八恒河沙（ガンジス川の砂の数）[に等しい数の]百千コーティ[倍]の仏・世尊によって、語られ、加持され、隨喜されてきたものである。大如來の智印において現れるものであり、一切の衆生の悪「道」・悪趣を滅するために、一切の地獄・畜生・ヤマ界からの解放を目的として、一切の苦難を得、苦海に落ちた衆生たちのため、解放を目的として説かれたのである。短命薄福にして劣悪なる衆生、悪しき果報と結びついた衆生のために、ジャンプ州に配置されたのである。地獄趣の衆生たちの、つまり、清らかな生まれと寿命とを欠き、抛り所を無くし、正道を無くしてしまった衆生たちのために、この陀羅尼はジャンプ州に配置されたのである。衆生たちの[悪趣からの]完全な解放を目的として。

## § 7.1 陀羅尼の功德

“anugr̥hṇ<ā>tu, devendra. <imāṃ dhāraṇīm> supratīṣṭhitasya devaputrasya prakāśaya : yad uta prakāśanaṃ, paṭhanasvādhyāyanaṃ cintanabhāvanasmarāṇaparyāvāpti<ḥ>. sarvasattvānām arthāya, im<ā>ṃ sarvajambudvīpak<a>sattvā<nām>, i<mā>ṃ ca sarvadevabhavan<a>devaputrā[nām arthāya], imāni ca dhāraṇīm<udrāmantrāni> parindāmi. sugr̥hītaṃ ca tvayā, devendra, kartavyam” iti.

## 参照テキスト

*Cf. Saddharmapuṇḍarīkasūtra* (pp. 110, 112–3, 116): anugr̥hṇātu bhagavān imāṃ lokam.

*Cf. Vimalakīrtinirdeśa* (12.23): tatra bhagavān āyusmantam ānandam āmantrayate sma: udgr̥hāṇa tvam ānanda imāṃ dharmaparyāyaṃ dhāraya vācaya pareṣāṃ ca vistareṇa saṃprakāśaya /

*Cf. Ms.*, 4v2, 3–4, 5: sattvānām arthāya

*Cf. Ratnaketu-parivarta* (p. 148): evam eva ye bhaviṣyanty anāgate ’dhvani daśasu dikṣu buddhā bhagavantaḥ te ‘pi sarve kliṣṭeṣu paṃcakaṣāyeṣu buddhakṣetreṣu kṣaṇāt sannipatyā sattvahitārtham etāni dhāraṇīmantrapadāni bhāṣiṣyamte /

## 写本転写 Ms., p. 109: 4 verso

6 parimokṣaṇārtham || anugr̥hṇatu ○ devendra iyaṃ dhāraṇī supratīṣṭhitasya devaputrasya prakāśaya :  
7 yad uta prakāśanaṃ paṭhanasvādhyāyanaṃ cintanabhāvanasmarāṇa[p]aryāvāpti sarvasattvānām a[r]thāya-n i  
8 maṃ sarvajambudvīpakā satvā iyaṃ ca sarvadevabhavanā devaputrā imāni ca dhāraṇīm [u] .rā . . . [pa]  
9 ri[nd]āmi ° sugr̥hītaṃ ca tvayā devendra kartavyam iti || [a]yaṃ [ca d]e[v]en[d]ra dhāraṇī sa .. + + + +

Melzer (2007, 109) reads: 4v6 prakāśayaḥ; 4v7 a[r]thāya [c]e

\* Ms. のこの箇所以降は文法的な乱れが大きい。特に代名詞の変化形の乱れが目立ち、そのままでは意味が取れない箇所については、性・格を揃えるなど便宜的に補正して読んでおく。

チベット訳 [T1: P. 229a3-; D. 245b5-]

lha'i dbang po khyod kyis gzungs 'di bzung<sup>1</sup> la lha'i bu shin tu brten pa la sgrogs shig / bsgrags nas kyang gdon pa dang kha ton du bya ba dang / bsam pa dang sgom<sup>2</sup> pa dang dran par bya ba dang / mchod pa dang bzung<sup>3</sup> ba dang kun chub par bya ba la de sbyor bar gyis shig dang /

de ltar lha'i gnas thams cad na 'khod pa'i lha'i bu rnam dang 'dzam bu'i gling pa'i sems can rnam kyid don dang phan pa dang bde ba'i phyir gzungs kyid phyag rgya dang / gsang sngags 'di dag khyod la gtad do //<sup>4</sup> de'i phyir lha'i dbang po khyod kyis<sup>5</sup> gzung bar bya'o //

1. D: zung 2. D: bsgom 3. D: gzung 4. T2 P, D *om*. this section up to this point. 5. T2 P, D *ad*. yang dag par

漢訳 [351a12-]

佛告：「天帝、我說此陀羅尼付囑於汝。汝當授與善住天子。復當受持讀誦、思惟・愛樂・憶念・供養。於瞻部洲與一切衆生廣爲宣說此陀羅尼印。亦爲一切諸天子故說此陀羅尼印付囑於汝。天帝、汝當善持守護。勿令忘失。」

和訳

「恩寵を施しなさい、天帝よ。この陀羅尼を善住という天子のものとして説示してやりなさい。説示とは即ち、読誦し、自習させることであり、念じ、修習し、憶念し、体得させることである。一切衆生のために、つまり、一切のジャンブ州の衆生 {の}、そして、一切の天宮における天子たち {のために、これらの陀羅尼・印契・真言を委嘱しよう。天子よ、汝は [これらを] 善持しなさい。」

## § 7.2

“ayaṃ ca devendra, dhāraṇī samāśravaṇamātreṇa kalpaśatasahasrakarmāvaraṇasaṃcitam...

## 参照テキスト

Cf. Ms., 3r5: dhāraṇī samāśravaṇamātreṇa

Cf. *Aparimitāyuh-sūtra* (20): ya idam aparimitāyuh sūtraṃ likhīṣyati likhāpayīṣyati tasya pañcānantaryāṇi karmāvaraṇāni parikṣayaṃ gacchanti // 20 //

Cf. Ms., 5r1: narakatiryagyoniyamalokā nopapatsyante. na ca preta{viṣayeṣūpapatsyante, asureṣu kāyeṣu ca papatsyante.}

Cf. Ms., 6r9: sarva{tathā}gatasam{avadhānaṃ bha}viṣyati.

Cf. Ms., 3r6: pariśuddha{jā}tiḥ pratilabhate.

Cf. *Larger Sukhāvaiṣyūha-sūtra* (p. 18): sacen me bhagavan bodhiprāptasya, samantāc cāprameyāsaṃk hyeyācintyātulyāparimāṇeṣu buddhakṣetreṣu bodhisattvā mama nāmādheyam śrutvā, tacchravaṇasahagatena kuśalamūlena jātivyavṛttāḥ santo, na dhāraṇīpratīlabdhā bhaveyur, yāvad bodhimaṇḍaparyantam iti, mā tāvad aham anuttarāṃ samyaksambodhim abhisambudhyeyam.

Cf. Ms., 5r9: mahāprabhāv<e>yaṃ bhagavan dhāraṇī mahānuṣaṃ{sā}

Cf. *Ratnaketu-parivarta* (p. 37): iha bhaginīyaṃ ratnaketur nāma dhāraṇī mahārthikā mahānuṣaṃsā mahāprabhāvā sarvamātrīgrāmabhāvākṣayakarī kāyavākcittaduḥkhavipākadauṣṭhulyaṃ niravaśeṣaṃ kṣapayati /

## 写本転写 Ms., p. 109: 4 verso

9 ri[nd]āmi ° sugrhitam ca tvayā devendra kartavyam iti || [a]yaṃ [ca d]e[v]en[d]ra dhāraṇī sa .. + + + +  
10 treṇa kal. aśatasahasrakarmāvaraṇasaṃ .[i] ..m ... + + + + + [ya] nti [n. ... + + + + +

Melzer (2007, 109) reads: 4v10 -ā[va]raṇa-; + + + + ... i ... ..

\* Ms は上記以降、§ 7.3 とした箇所までのテキストを欠いている。しかしこれは、欠落箇所の前後のフレーズの類似から判断して、原典に存在しなかったのではなく、写本書写者の eye-skip (読み飛ばし) と推定できる。チベット訳、漢訳には存在している。上記の一節を書写した時点でちょうど書写中の葉の最後の行 (Ms., 4v10) が埋まっており、新しい葉に書写をはじめるときの時点で、類似した字句のならば節まで読み飛ばしてしまったものと考えられる。

チベット訳 [T1: P. 229a5-; D. 245b7-]

lha'i dbang po gzungs 'di<sup>1</sup> thos ma thag tu bskal pa brgya stong du bsags pa'i las kyi<sup>2</sup> sgrub pa yongs su byang bar 'gyur ro // skye bar skye ba nmam pa<sup>3</sup> sna tshogs sems can dmyal ba dang / dud 'gro'i skye gnas dang / gshin rje'i 'jig rten dang yi dags kyi yul dang / lha ma yin gyi ris dang / 'di lta ste gnod sbyin dang srin po dang 'byung po dang / sha za dang srul po dang / lus srul po dang /<sup>4</sup> khyi dang ru<sup>5</sup> sbal<sup>6</sup> dang / sbrul dang gcan zan<sup>7</sup> khro bo dang / bya dang sbrang bu dang sbrang ma dang / sdig sbrul dang grog sbrul la sogs pa<sup>8</sup> srog chags kyi rigs<sup>9</sup> su phyis mi skye bar shes<sup>10</sup> pa<sup>11</sup> bya'o // gzhan du na de bzhin gshegs pa dang phrad pa dang / byang chub sems dpa'i rigs su<sup>12</sup> skye ba ni ma gtogs so // de rigs chen po<sup>12</sup> 'di lta ste bram ze'i rigs shing sa<sup>13</sup> la chen po lta bu 'am / rgyal rigs shing sa<sup>14</sup> la chen po lta bu 'am /<sup>15</sup> tshong dpon gyi rigs shing sa<sup>16</sup> la chen po lta bu skye 'o zhes nga smra'o //

lha'i dbang po de ltar na gzungs 'di'i mthus byang chub kyi snying po la<sup>17</sup> mthar thug gi bar du skye ba yongs su dag pa chen po 'thob ste / lha'i dbang po gzungs 'di ni de ltar mthu che ste / lha'i dbang po gzungs<sup>18</sup> di ltar<sup>18</sup> mthu che ba phan yon che ba mthu stobs che ba dge zhing<sup>19</sup> shis pa yin te /

1. T2 P, D ad. lan gcig 2. T2 P, D: gyi 3. T2 D om. nmam pa 4. D, T2 P, D: brjod byed dang / 5. T2 D: rus 6. D: rus sbal 7. D: gzan 8. T2 P, D: pa 9. T2 P, D ad. nmams 10. T2 P, D: rig 11. D, T2 P, D: par 12. T2 P, D: skye ba dang / rigs chen por skye ba ste / de la rigs chen po ni 13. D, T2 D: sā 14. D, T2 D: sā 15. T2 P ad. khyim bdag gi rigs shing sa la chen po lta bu 'am /, D ad. khyim bdag gi rigs shing sā la chen po lta bu 'am / 16. D, T2 D: sā 17. T2 P, D: 'i 18. D: 'di ni 'di ltar, T2 P, D: 'di ni de ltar 19. T2 P, D: ba

漢訳 [351a16-]

天帝、若人須臾得聞此陀羅尼、千劫已來積造惡業重障、應受種種流轉生死、地獄・餓鬼・畜生・閻羅王界・阿修羅身・夜叉・羅刹・鬼神・布單那・羯吒布單那・阿波娑摩囉・蚊・虻・龜・狗・蟒蛇・一切諸鳥及諸猛獸、一切蠢動含靈、乃至蟻子之身更不重受、即得轉生諸佛如來・一生補處・菩薩同會處生。或得大姓婆羅門家生、或得大利利種家生、或得豪貴最勝家生。天帝、此人得如上貴處生者、皆由聞此陀羅尼故。轉所生處皆得清淨。天帝、乃至得到菩提道場最勝之處、皆由讚美此陀羅尼功德如是。

和訳 (主にチベット訳に基づく。下線部については左記参照)

「そして、この陀羅尼は、天帝よ、聞くだけで、百千劫と積まれた業障を 消滅させる。地獄、畜生、ヤマ界、餓鬼、阿修羅の集まりや、同様に、夜叉、羅刹、幽鬼プータ、食人鬼ピシャーチャ、臭鬼プータナ、奇臭鬼カタ・プータナ [といった鬼神類や]、狗、亀、毒蛇、鳥、蜂、虻、腹行類、蟻などの生類として再生することはない。もしそうでない(再生する)場合には、諸如来とともにあること (俱会一処: samavadhāna/phrad pa) があるだろう。菩薩の家系、あるいは、偉大な家系、例えば、大きな屋敷のパラモン一族や、大きな屋敷のクシャトリヤの一族か、大きな屋敷の長者の一族に生まれるであろう。

天帝よ、このように、この陀羅尼の力により、最勝の菩提の座を極めるに到るまでの、清浄なる生を獲得するのである。天帝よ、この陀羅尼は、このように、大いなる威神力、大いなる賞賛、大いなる威勢、大いなる吉祥さを伴うものである。」

## § 7.3

## 参照テキスト

*Cf. Gaṇḍavyūhasūtram* (p. 71): indranīlamayeṣu kṣetreṣu sūryagarbhamāṇirājavarnāṃ prabhāṃ pramuñcamānāni, sūryagarbhamāṇirājaśarīreṣu kṣetreṣu indranīlamanīrājavarnāṃ prabhāṃ pramuñcamānāni...

*Cf. Gaṇḍavyūhasūtram* (p. 211): tad yathāpi nāma jāmbūnadakanakabimbasya purato maṣivigraho na śobhate na bhāsate, na tapati, na virocate, evam eva samantabhadrasya bodhisattvasya purataḥ teṣāṃ sattvānāṃ rūpakāyā na śobhante, na bhāsante, na tapanti, na virocante //

*Cf. Ms.*, 4v7: yad uta prakāśanaṃ, paṭhanasvādhyāyanaṃ cintanabhāvanasmaranaparyāvāpti<h>.

## 写本転写

\* おそらく書写者の eye-skip (読み飛ばし) により欠落。

## チベット訳 [T1: P. 229b3–; D. 246a4–]

lha'i dbang po sems can rnam kyī don gyi phyir / gtsug tor rnam par rgyal ba zhes bya ba'i gzungs / ngan 'gro thams cad yongs su sbyong ba 'di bzhag go / 'di lta ste dper na nor bu rin po che nyi ma'i snying po shin tu dri ma med pa nam mkha' ltar yongs su dag pa'od gsal ba ni 'od zer gyi snang bas 'bar zhing 'dug go / lha'i dbang po de bzhin du sems can de yang gos pa med par shes par bya'o // 'di lta ste dper na 'dzam bu'i chu bo'i gser ni<sup>1</sup> dri ma med pa shin tu<sup>2</sup> yongs su dag pa dang<sup>3</sup> shin tu mnyen pa shin tu sdug pa'o // lha'i dbang po de bzhin du sems can<sup>4</sup> de yang shin tu yongs su dag par rig par bya ste / tshe rabs gzhan du yang de bzhin du skye bar 'gyur ro //

lha'i dbang po gang na gzungs 'di rab tu ston pa dang / bye brag tu na yi ger<sup>5</sup> 'drir<sup>6</sup> 'jug pa dang / 'dzin pa dang / klog pa dang / 'don pa dang / kha ton du byed pa dang mchod pa dang / kun chub par byed pa dang / nyan pa dang 'dzin par 'gyur ba der 'gro ba thams cad yongs su dag par 'gyur /<sup>7</sup> sems can dmyal ba thams cad rgyun chad par 'gyur ro //

lha'i dbang po gzungs 'di yi ger bris te rgyal mtshan gyi rtse mor gzha<sup>8</sup> par bya / ri mthon po 'am khang pa mthon po 'am mchod rten gyi srog shing gi steng du<sup>9</sup> gzha<sup>8</sup> par bya'o //

lha'i dbang po dge slong ngam / dge slong ma 'am / dge bsnyen nam / dge bsnyen ma 'am / de las gzhan pa 'i<sup>10</sup> rigs kyī bu 'am rigs kyī bu mo gang gis rgyal mtshan gyi rtse mor bzhag<sup>11</sup> pa mthong ngam de dang de<sup>12</sup> nye bar gnas par gyur<sup>13</sup> na / tha na de'i grib ma<sup>14</sup> phog gam / de'i rdul rlung gis<sup>15</sup> btap pas<sup>16</sup> phog na / yang<sup>17</sup> lha'i dbang po sems can de la sdig pa thams cad dang / ngan 'gror 'gro ba'i 'jigs pa thams cad mi 'byung ngo //

1. T2 P, D *ad.* shin tu 2. T2 P, D *om.* shin tu 3. D, T2 D: dag pa / 4. T2 P, D *ad.* chen po 5. T2 P: ge 6. T2 P: 'brir 7. T2 P, D: de 8. T2 P, D: 'gyur ro // 8. T2 P: bzhag 9. T2 P, D: gyi nang du 10. T2 P, D: pa 11. T2 D: gzha<sup>8</sup> 12. D: der, T2 P, D: de dang 13. T2 P: 'gyur 14. D, T2 P, D: mas 15. T2 P, D: gi 16. T2 P, D: pa 17. D, T2 P, D: na yang

## 漢訳 [351a28-]

天帝、此陀羅尼名爲“吉祥能淨一切惡道”。此佛頂尊勝陀羅尼猶如日藏摩尼之寶。淨無瑕穢、淨等虛空、光焰照徹無不周遍。若諸衆生持此陀羅尼亦復如是。亦如閻浮檀金明淨柔軟。令人喜見、不爲穢惡之所染著。天帝、若有衆生持此陀羅尼亦復如是。乘斯善淨得生善道。

天帝、此陀羅尼所在之處、若能書寫・流通・受持・讀誦・聽聞・供養、能如是者一切惡道皆得清淨、一切地獄苦惱悉皆消滅。」

佛告：「天帝、若人能書寫此陀羅尼安高幢上、或安高山、或安樓上、乃至安置窰堵波中、天帝、若有苾芻・苾芻尼・優婆塞・優婆夷・族姓男・族姓女、於幢等上或見、或與相近其影映身、或風吹陀羅尼上、幢等上塵落在身上、天帝、彼諸衆生所有罪業……

和訳（主にチベット訳に基づく。下線部については左記参照。）

「天帝よ、一切衆生のために、この『一切惡趣清淨仏頂尊勝』という名の陀羅尼は確立されている。ちょうど日藏摩尼宝が、完全に汚れなく、虚空のように清らかで、光り輝き、光線の光で照り輝いている。天帝よ、そのように、陀羅尼によって清浄な生を獲得したその衆生もまた汚されていないと知られるべきである。ちょうど閻浮檀金が、汚れなく、完全に清浄で、なめらかで、優美である。天帝よ、そのように、その衆生もまた清浄であると知られるべきである。[さらに]他の生においてもまたそのように生まれてくるのである。

天帝よ、どこであれ、この陀羅尼を説示し、特に筆写し、保持し、唱え、読み上げ、自習し、供養し、体得し、聽聞し、理解する場所は、清浄になるであろう。そして、一切の地獄とは断絶した場所になるであろう。

天帝よ、この陀羅尼を書写して、幡幢の先に安置すべきである。あるいは高山、あるいは高樓、あるいは仏塔の柱の先に安置すべきである。

天帝よ、比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷やその他の善男子、善女人のいずれかが、はたほこの先に置かれてあるのを見たり、それらの近くに行ったときに、わずかにその影が映ったり、その塵芥が風に吹かれて身にかかっただけでも、天帝よ、その衆生には、すべての罪障と、一切の惡趣に墮ちる恐れとが生じることはないのである。」

## § 7.4

narakatiryagyoniyamalokā nopapatsyante. na ca {pretaviṣayāsarakāyeṣu}. na ca {caṇḍālakuleṣu. te sarve} vyākṛt<ās> ca, devendra, sattvā sarvatathāgataiḥ, {avaivartikā} bhaviṣyanty anuttarasyāṃ samyaksambodhau.

kiṃ punar devendra, anyāni bahutaram adhikāraṃ kariṣyati, puṣpadhūpagandhamā(1)ya-vilepan ācchādanacchatradhvajapatākair vastrābharaṇair alamkṛtya kariṣyanti, catuṣpathacaityaṃ sthāpayitavyaṃ añjaliṃ namaskāra<ṃ> pradakṣiṇanamaskāraṃ vā namasyanti. tasya devendra sattvasya mahāsattva iti veditavyaṃ, dharmasthāna iti veditavyaṃ, tathāgataśārīrastūpa iti veditavyaṃ ||”

## 参照テキスト

*Cf. Aṣṭasāhasrikā Prajñāpāramitā* (p. 211), evaṃ śikṣamāṇaḥ subhūte bodhisattvo mahāsattvo na nirayeṣūpapadyate, na tiryagyonīṣūpapadyate, na pretaviṣayeṣūpapadyate, nāsūreṣu kāyeṣūpapadyate, na pratyantajanapadeṣūpapadyate, na caṇḍālakuleṣūpapadyate.

*Cf. Aparimitāyuh-sūtra* (26); 池田 (1916, 555): ya idam aparimitāyuhśūtraṃ likhīṣyati likhāpayīṣyati, sa pṛthivīpradeśāś caityabhūto vandanīyaś ca pradakṣiṇīyaś ca pūjanīyaś ca bhaviṣyati / yeṣāṃ tiryagyonigatānāṃ mṛgapakṣiṇāṃ karnapuṭena śabdā nipatiṣyati te sarve ’vaivartikā anuttarāyāṃ samyaksambodhau abhisambodhim abhisambhotsyante //

*Cf. Aṣṭasāhasrikā Prajñāpāramitā* (p. 28): evam ukte śakro devānāṃ indro bhagavantam etad avocat - yo bhagavan kulaputro vā kuladuhitā vā imāṃ prajñāpāramitāṃ likhitvā pustakagatāṃ kṛtvā sthāpayet, enāṃ ca divyābhiḥ puṣpadhūpagandhamālyavilepanacūrṇacīvaracchatradhvajaghaṇṭāpatākābhiḥ samantāc ca dīpamālābhiḥ, bahuvīdhābhiś ca pūjābhiḥ satkuryāt gurukuryāt mānayet pūjayet arcayet apacāyēt...

## 写本転写 Ms., p. 109: 5 recto

- |   |  |
|---|--|
| 1 | narakatiryagyonī-r-yamalokā nopapa[ts]y[a]nte ° na ca .r. . . . ++++++ [na] ca cām . . . + . . . +++++               |
| 2 | vyākṛta sa ca devendraḥ satvā sarvata ° thāgataiḥ [a]vai . . [t]. k. bhaviṣya[m]ty anuttarasyāṃ [sa]myaksam[bo]dh. + |
| 3 | kiṃ punar devendra anyāni bahutaram a[dhi]kāraṃ kariṣyati ° puṣpadhūpagandhamālavile[pa]nācchādanaccha               |
| 4 | V tradhvajapatākā[va]strābharaṇair alamkṛtya kariṣyanti ° catuṣpatha caityaṃ sthāpa°y[i]tavyaṃ    añjaliṃ nama       |
| 5 | skārapradakṣiṇanamaskāraṃ ° vā namasyanti    tasya devendra satvasya mahāsattva iti veditavyaṃ °                     |
| 6 | dharmasth[ā]na iti veditavyaṃ ° ○ tathāgataśārīrastūpa iti veditavyaṃ    atha ya[ma]sya dharmā                       |

Melzer (2007, 109) reads: 5r4 catuṣpathā, sthāpa°yatavyaṃ

チベット訳 [T1: P. 230a2-; D. 246b4-]

sems can dmyal ba dang dud 'gro'i skye gnas dang / gshin rje'i 'jig rten dang yi dags dang / lha ma yin gyi ris thams cad du mi skye bar 'gyur ro<sup>1</sup> // lha'i dbang po sems can de ni de bzhin gshegs pa thams cad kyis lung bstan cing / bla na med pa yang dag par rdzogs pa'i byang chub las phyir mi ldog par rig par bya'o //<sup>2</sup>

lha'i dbang po<sup>3</sup> mchod pa dang rim gro<sup>4</sup> byed cing me tog dang / bdug pa dang spos dang / me tog phreng<sup>5</sup> ba dang byug pa dang gdugs dang / rgyal mtshan dang ba dan dang /<sup>6</sup> rgyan rnam kyis brgyan par byed pa dang / lam gyi bzhi mdor mchod rten byas te /<sup>7</sup> gzungs 'di bzhag<sup>8</sup> pa la thal mo sbyar<sup>9</sup> ba 'am phyag 'tshal ba 'am skor ba byed pa lta ci smos te / lha'i dbang po sems can de<sup>10</sup> ni sems can chen por<sup>11</sup> rig par bya'o // de bzhin gshegs pa'i sras su rig par bya'o // chos kyi gnas su rig par bya'o // de bzhin gshegs pa'i mchod rten du rig par bya'o //

1. T2 P, D: bar rig par bya'o 2. T2 P, D: bya na / 3. T2 P, D ad. shing bzo byed pa la yang phan yon chen por 'gyur na / 4. T2 P: 'gror, D: gror 5. T2 P: 'phreng 6. T2 P ad. spos dang, D ad. spos dang/ 7. T2 P, D: byas la 8. T2 D: gzhag 9. T2 P: sbyor 10. T2 P, D: 'di 11. T2 P, D: po yin par

---

漢訳 [351b14-]

應墮惡道・地獄・畜生・閻羅王界・餓鬼界・阿修羅身惡道之苦、皆悉不受、亦不爲罪垢染汚。天帝、此等衆生爲一切諸佛之所授記、皆不退轉於阿耨多羅三藐三菩提。

大帝、何況更以多諸供具・華鬘・塗香・末香・幢幡・蓋等衣服瓔珞作諸莊嚴、於四衢道造窰塔波安置陀羅尼、合掌恭敬・旋繞行道・歸依禮拜。天帝、彼人能如是供養者、名“摩訶薩埵”。眞是“佛子”、“持法棟梁”。又是“如來全身舍利窰塔波塔”。」

---

和訳

「……地獄、畜生、ヤマ界 [の住人] として生まれることはないであろう。餓鬼の {境涯、阿修羅の群れの中に生まれることはないであろう。チャンダーラの家系に生まれることは} ないであろう。天帝よ、{彼ら一切の} 衆生は、一切如来の授記する所となり、みな阿耨多羅三藐三菩提より {退転しないものと} なるであろう。

天帝よ、他の諸々の恭敬をする者、華、香水、抹香、華鬘、塗香、上衣、傘蓋、幢、幡によって、また、衣服、装飾品によって莊嚴する者、適切に設置された四辻のチャイトヤに合掌礼拝し、あるいは右繞礼拝し、礼拝するひとにはさらにどのような [功德が] あるだろうか？ 天帝よ、[そのような] 人は、偉大な人 (mahāsattva) として知られるべきであり、持法者として知られるべきであり、如来の舎利のストゥーパとして知られるべきである。」

## § 8 ヤマ王の来訪：陀羅尼の功德 2

atha yamasya dharmarājasya tasy[ā] rātryā atyayā[t] yena bhagav<āms> tenopasaṃkrāntā, bhagav<ate> nānādivyaṃ puṣpavastrālaṃkāradhūpaiḥ pūjāsatkāram akārṣīt. saptabhiḥ pradakṣiṇīkrtya bhagavataḥ pādāyor nipatyaitad avocat: “mahāprabhāv<e>yam bhagavan dhāraṇī mahānuśamsā. aham api bhagavan tasya sattvasya satatasamita<ḥ> sadānubaddh<aḥ> sthāsyām<i>, rakṣaṇārthāya, pari{mokṣaṇārthāya, sarva}narakā<c> cāsyā nivāraṇārthāya. bhaviṣyāmaḥ kṛtajñā vyaṃ, bhagavan bhaviṣyā<maḥ> nākṛtajñā” iti.

## 参照テキスト

*Cf. Divyāvādāna, Rudrāyaṇāvādānam* (p. 468): athāyuṣmān mahākātyāyanas tasyā eva rātryā atyayāt pūrvāhṇe nivāsyā pātracivaram ādāya rājagrhaṃ piṇḍāya prāvīkṣat/

*Cf. Divyāvādāna, Sūkarikāvādāna* (p. 120): atha śakro devānām indraḥ kutūhalajāto yena bhagavāms tenopasaṃkrāntaḥ/ upasaṃkramya bhagavataḥ pādau śirasā vanditvā ekānte niṣaṇṇaḥ/

*Cf. Ratnaketurparivarta* (p. 37): iha bhaginīyaṃ ratnaketur nāma dhāraṇī mahārthikā mahānuśamsā mahāprabhāvā sarvamātrgrāmabhāvākṣayakarī kāyavākcittaduḥkhavipākadauṣṭhulyaṃ niravaśeṣaṃ kṣapayati /

*Cf. Ms., 4v1–2*: sarvanarakatiryagyoniryamalokavimokṣaṇārthaṃ

## 写本転写 Ms., p. 110: 5 recto

6 dharmasth[ā]na iti veditavyaṃ ° ○ tathāgataśārīrastūpa iti veditavyaṃ || atha ya[ma]sya dharmarā  
7 jasya tasya rātryām atyayā y[e]na bhagavatā tenopasaṃkrāntā bhagavatā nānādivyaṃ puṣpavastrālaṃ  
8 kāradhūpaiḥ pūjāsatkāram akārṣīt\* saptabhiḥ pradakṣiṇīkrtya bhagavataḥ pādāyor nipatyaitad a  
9 vocat\* mahāprabhāvoyaṃ bhagavan dhāraṇī mahānuśam[sā] : aham api bhagavan tas[ya] sat.asya  
5 verso  
1 satatasamitam sadānubaddhā sthāsyāma rakṣaṇārthāya ° pa[r]i + .[ṣ]. .. rthāya .. .. narakā cāsy. n. vā  
2 raṇārthāya bhaviṣyāmaḥ kṛtajñā vyaṃ bhagavan bhaviṣyāma nā[k]. tajñā iti || atha catvāro mahārājāna

Melzer (2007, 110) reads: 5r9 mahāprabhāvo yaṃ

チベット訳 [T1: P. 230a6-; D. 246b7-]

de nas chos kyi rgyal po gshin rje nub<sup>1</sup> mo<sup>2</sup> nam langs nas / bcom ldan 'das ga la ba der song ste / bcom ldan 'das la lha'i me tog dang / gos dang rgyan<sup>3</sup> la sogs pas mchod pa dang / sti<sup>4</sup> stang<sup>5</sup> byas nas / des bcom ldan 'das la lan bdun bskor ba byas nas<sup>6</sup> / bcom ldan 'das kyi zhabs la gtugs nas 'di skad ces gsol to //

bcom ldan 'das gzungs 'di ni mthu che zhing phan<sup>7</sup> yon che ba lags te / bcom ldan 'das bdag kyang rtag tu rgyan mi 'chad par sems can de'i slad bzhin du<sup>8</sup> 'brang zhing kun<sup>9</sup> tu bsrung<sup>10</sup> ba dang / yongs su bskyab pa 'i<sup>11</sup> slad du gnas par bgyi 'o // sems can dmyal ba thams cad las de bzlog par bgyi 'o // bcom ldan 'das bdag ni byas pa bzo<sup>12</sup> bar<sup>13</sup> bgyid cing /<sup>14</sup> byas pa mi bzo<sup>15</sup> bar mi bgyid do //

1. T2 P, D: de 'i nub 2. T2 P, D: mo de 3. T2 P: brgyan 4. D, T2 D: bsti 5. T2 P, D: stang du 6. T2 P, D: te 7. T2 P, D: sman 8. T2 P, D om. du 9. T2 P, D: dus kun 10. T2 P: srung 11. T2 P skyang ba 'i, D: bskyang ba 'i 12. D, T2 P, D: gzo 13. T2 P: ba 14. T2 P, D: kyi 15. D, T2 P, D: gzo

漢訳 [351b25-]

爾時閻摩羅法王、於時夜分來詣佛所。到已、以種種天衣・妙華・塗香・莊嚴供養佛已、繞佛七匝、頂禮佛足而作是言：「我聞如來演說讚持大力陀羅尼故來修學。若有受持・讀誦是陀羅尼者、我常隨逐守護、不令持者墮於地獄。以彼隨順如來言教而護念之。」

和訳

さて、ヤマ法王が、その日の夜が過ぎると、世尊のおられる所にやってきて、世尊に種々の天の華、衣、装飾、薫香によって、供養恭敬をなした。七回右繞し、仏の両足に頂礼して、こう言った。「世尊よ、この陀羅尼は、大いなる威勢を持つものであり、大いなる賞賛を備えた陀羅尼なのです。私（ヤマ王）もまた、世尊よ、その衆生にとって、常にとともにあって、常に随伴する者として留まりましょう。守護するために、[悪趣から] 解放させるために。また全ての地獄から、彼を遮断するための者となりましょう。私たちは恩を知る者となりましょう、恩知らずとはなりません」と。

## § 9.1 陀羅尼の用法：四天王の質問

atha catvāro mahārājāna bhagavantam pradakṣiṅkṛtya bhagavantam etad avoca<n>:  
“deśayatu bhagavāṃ suvistaram” iti. “kasyopacāravidhiḥ”.

atha bhagavāṃ catvāro mahārājānam etad avocat: “śṛṇu, vakṣyāmi. <i>yaṃ dhāraṇī alpāyuṣāṇām sattvānām arthāya. tena snātvā śucivastr<aṃ> prāvaritavyaṃ. pūrṇapañcadaśyāṃ sopavāsena ayaṃ dhāraṇīśahasrajāpo dātavyaḥ. tasya sattvasya mahati [āyu] saṃvartate. {vigatavyādhiś} ca bhaviṣyati. sarvāvaraṇaviśuddhim pratilabhate. sarvanarakaga[tibhyaḥ] parimucyan[te]. {antaśaḥ} mrgapakṣi[ṇām] tiryagyonigat[ānām] prāṇinām karṇapuṭe tacchabdo nīpatiṣyati, {teṣāṃ pa}ścimakā gati[ḥ] pratikāṅkṣita[vyā]”.

## 参照テキスト

*Cf. Aparimitāyuh-sūtra* (24); 池田 (1916, 555): ya idam aparimitāyuh sūtram likhīṣyati likhāpayīṣyati, tasya catvāro mahārājāḥ pṛṣṭhataḥ pṛṣṭhataḥ samanubaddhā āraḥśāvaraṇaguptim kariṣyanti // 24 //

*Cf. Ms.*, 7r6: mahatim āyu saṃvrtta[m i]ti

*Cf. Ms.*, 6r2: -garbhāvāsapratikāṃkṣitavyaṃ

*Cf. Vimalakīrtinirdeśa* (4.6): yadā sarvasatvā vigatavyādhayo bhaviṣyanti tadā bodhisatvo ’rogo bhaviṣyati /

*Cf. Ms.*, 6v10: sar[v]asatva narakagatiḥ parimucyante

*Cf. Bhaiṣajyaguruvaidūryaprabhārājasūtra* (p. 169) : ahaṃ bhagavan paścime kāle paścime samaye teṣāṃ śrāddhānām kulaputrāṇām kuladuhitṛṇām ca tasya bhagavato bhaiṣajyaguruvaidūryaprabhasya tathāgatasya nāmadheyam śrāvayiṣyāmi, antaśaḥ svapnāntaram api buddhanāmakaṃ karṇapuṭeṣu upasamhārayiṣyāmi |

*Cf. Aparimitāyuh-sūtra* (26); 池田 (1916, 555): ya idam aparimitāyuh-sūtram likhīṣyati likhāpayīṣyati, sa pṛthivīpradeśaś caityabhūto vandanīyaś ca pradakṣiṅīyaś ca pūjanīyaś ca bhaviṣyati / yeṣāṃ tiryagyonigatānām mrgapakṣiṅnām karṇapuṭena śabdā nīpatiṣyati te sarve ’vaivartikā anuttarāyāṃ samyaksambodhau abhisambodhim abhisambhotsyante //

*Cf. Aṣṭasāhasrikā Prajñāpāramitā* (p. 234): tathāgatasamanvāhṛtasya hi subhūte bodhisattvasya mahāsattvasya kā gatiḥ pratikāṅkṣitavyā? tathāgatasamanvāhṛtasya hi subhūte bodhisattvasya mahāsattvasya nānyā gatiḥ pratikāṅkṣitavyā anyatrānuttarāyāḥ samyaksambodheḥ /

## 写本転写 Ms., p. 110: 5 verso

2 raṇārthāya bhaviṣyāmaḥ kṛtajñā vayaṃ bhagavan bhaviṣyāma nā[k]. tajñā iti || atha catvāro mahārājāna  
3 bhagavantam pradakṣiṅkṛtya bhagavantam etad avocat\* deśa[y]. tu bhagavāṃ suvistaram iti ° kasyopacā  
4 ravidhiḥ || atha bhagavāṃ catvāro mahārājānam etad avocat\* .. ṇu va[kṣ]yāmi ayaṃ dhāraṇī-m alpāyuṣā  
5 ṇām satvānām arthāya ° tena snātvā śucivastrāṇi prāv. .. tavyaṃ ° pūrṇapañcadaśyāṃ s[o]pavāsena a  
6 yaṃ dhāraṇī sahasrajāpo d[ā]tavyaḥ tasya satvasya mahati [m]. .. [sa]m[va]rta[te] ° .. gata[vyādhaya]ś ca bhavi  
7 ṣyati ° sarvāvaraṇaviśuddhim pratilabhate ° sarvanarakaga .i . . . . . [te] . . . . . [m]r[ga]p[ak]ṣiṅa ti  
8 ryagyonigataya prāṇinām karṇapuṭe tacchabdo nīpatiṣya[ti] . . . [e] . . . . . śc. [ma]kaṃ gati [p]ra[ti]kāṅkṣita ..

Melzer (2007, 110) reads: 5v3 avistaram, kasyopaca-; 5v6 da/ātavyaḥ; 5v8 .[ai] . . .

チベット訳 [T1: P. 230b1-; D. 247a3-]

de nas rgyal po chen po bzhis bcom ldan 'das la lan gsum bskor ba byas te / bcom ldan 'das la 'di skad ces gsol to //

bcom ldan 'das gzungs 'di'i cho ga zhib mo dang / bgyi ba'i cho ga<sup>1</sup> tshul rgyas par bshad du gsol / de nas bcom ldan 'das kyis rgyal po bzhi po dag la 'di skad ces bka' stsal to //

nyon cig dang gzungs 'di'i bya ba'i<sup>2</sup> tshul bshad par bya'o // sems can tshe thung ba'i don gyi phyir rigs kyi bu'am / rigs kyi bu mos tshes bcwa lnga<sup>3</sup> zla ba nya ba<sup>4</sup> la khru byas te lan stong rtsa brgyad<sup>5</sup> bzlas brjod byas na des<sup>6</sup> sems can tshe zad pa de'i tshe phyir nur nas<sup>7</sup> nad thams cad<sup>8</sup> dang bral bar 'gyur ro // sgrib pa thams cad mam par dag pa<sup>9</sup> thob par 'gyur ro // sems can dmyal ba la sogs pa ngan 'gro thams cad las yongs su thar bar 'gyur ro // tha na dud 'gro'i skye gnas su song ba'i srog chags bya'i rna lam du gzungs 'di'i sgra bsgrags<sup>10</sup> par bya ste / des ni<sup>11</sup> de'i ngan 'gro 'i<sup>12</sup> tha ma yin par rig par bya'o //

1. D, T2 P, D: ga 'i 2. T2 P, D: ba 'i cho ga 'i 3. D, T2 P, D: lnga 'i 4. T2 P, D om. nya ba 5. T2 P, D om. rtsa brgyad 6. T2 P, D: de 7. T2 P, D: de yang phyir nur ro // 8. T2 P, D om. thams cad 9. T2 P, D: par 10. T2 P: gsgrags 11. T2 P: na 12. T2 P, D: 'gro 'di nyid

漢訳 [351c02-]

爾時護世四天王、繞佛三匝、白佛言：「世尊、唯願如來、爲我廣說持陀羅尼法。」

爾時佛告四天王：「汝今諦聽、我當爲汝宣說受持此陀羅尼法。亦爲短命諸衆生說。當先洗浴著新淨衣、白月圓滿十五日時、持齋誦此陀羅尼。滿其千遍、令短命衆生還得增壽、永離病苦。一切業障悉皆消滅、一切地獄諸苦亦得解脫。諸飛鳥・畜生・含靈之類、聞此陀羅尼一經於耳、盡此一身更不復受。」

和訳

その時、四天王が世尊を右繞して世尊にこう述べた。「世尊は詳しくお示し下さい」と。「供養の次第の儀軌は、誰のものでしょうか？」

すると、世尊は四天王にこう述べた。「聞きなさい。説きましょう。この陀羅尼は寿命の短い衆生たちのためのものなのです。その人は、沐浴した後で、清浄な衣を着なさい。満月の15日、齋戒 (upavāsa) を保つ人は、この陀羅尼の千回の読誦をなしなさい。その人には、大いなる {寿命が} あるであろう。そして [その人は] {病気の消失した人と} なるであろう。全ての障礙の浄化を得て、あらゆる地獄趣にいる者が {解放されるのである。} 鳥獸・畜生趣の生き物にとってさえ、耳朶にその [陀羅尼の] 音声が入る {だけでも、それによって、彼らにとって} [その時の境涯が] 最後の境涯になると期待することができる。」



チベット訳 [T1: P. 230b5-; D. 247a6-]

gang zhid nad chen pos btab te sman pa rnams kyis bye brag<sup>1</sup> phye ba de yang<sup>1</sup> nad de las yongs su thar bar 'gyur ro // de'i<sup>2</sup> ngan 'gror skye ba thams cad kyang rgyun chad par 'gyur ro // shi 'phos nas kyang 'jig rten gyi khams<sup>3</sup> bde ba can du<sup>3</sup> skye bar 'gyur ro // de nyid de'i mngal gyi gnas tha ma yin par rig<sup>4</sup> par bya'o // gang<sup>5</sup> dang gang du skyes pa<sup>6</sup> de dang der padma'i snying po kho na las brdzus<sup>7</sup> te skye bar 'gyur ro // tshe rabs thams cad du yang tshe rabs dran par 'gyur ro //

sems can sdig pa byed pa gang dag shi<sup>8</sup> ba'i dus byas pa de dag gi don du gzungs<sup>9</sup> nyungs dkar<sup>10</sup> dag<sup>11</sup> la lan nyi shu rtsa gcig yongs su brjod de / de dag gi rus gong rnams kyi steng du gtor na de dag dmyal ba<sup>12</sup> 'am / dus 'gro'i skye gnas sam gshin rje'i 'jig rten nas<sup>13</sup> yi dags sam de las gzhan<sup>14</sup> ngan 'gro rnams su skye bar<sup>15</sup> gyur<sup>16</sup> kyang rung ste / de dag gzungs 'di'i mthus ngan 'gro de dag las thar bar 'gyur ro // de dag las thar nas kyang lhar skye bar 'gyur ro //

1. T2 P, D: phye ste bor ba yang de ltar na 2. T2 P, D: de ni 3. T2 P, D: bde ba can gyi 'jig rten gyi khams su 4. T2 P, D: shes 5. T2 P, D: de gang 6. T2 P, D: skye ba 7. T2 P: rdzus 8. T2 P, D: 'chi 9. T2 P, D: gzungs 'di 10. D, T2 D: yungs kar 11. T2 P, D om. dag 12. T2 P, D: sems can dmyal ba 13. D, T2 P, D: nam / 14. T2 P, D: gzhan pa 'i 15. D, T2 P, D: skyes par 16. T2 P: 'gyur

漢訳 [351c16-]

佛言：「若人遇大惡病、聞此陀羅尼、即得永離、一切諸病亦得消滅。應墮惡道亦得除斷、即得往生寂靜世界。從此身已後更不受胞胎之身、所生之處蓮華化生、一切生處憶持不忘、常識宿命。」

佛言：「若人先造一切極重惡業、遂即命終、乘斯惡業應墮地獄、或墮畜生・閻羅王界、或墮餓鬼、乃至墮大阿鼻地獄、或生水中、或生禽獸異類之身、取其亡者隨身分骨、以土一把誦此陀羅尼二十一遍、散亡者骨上、即得生天。」

和訳

「大病に触れられた人も、それを断じた者となり、一切の {病から解放されたもの} となり、一切の {悪趣への} 誕生も断じた者となるであろう。この [世] から {去ったなら、[阿閼仏の] 妙喜世界に生まれるであろう。それこそが彼の最後の} 入胎と期待されるべきである。どこに生まれることになるかと、化生の者として、蓮華から生まれるであろう。いかなる生においても、前生の記憶 (jātismara) があるだろう。

悪徳をなして、寿命尽きたある人のために、塵芥に、二十一回 [この陀羅尼を] 唱えて、その人の遺骨に上から撒くならば、どこかで死んで、地獄や畜生、あるいはヤマ界、あるいは餓鬼、あるいは阿鼻地獄に至るまで [の地獄] に、あるいは水 {中の生き物} や禽獣として生まれる [はずの者であったとしても、神々と] 伴なるものとして、諸天界に生まれるであろう。」

## § 9.3 極樂往生および涅槃へ

“dine dine ekaviṃśativāraṃ bhāṣitavyaḥ, mahatā sarvalokasya pūjanīyo bhaviṣyati. itaś cyutaḥ sukhāvātīlo[kadhātāv upapa]tsyate.

satatam smārya mahānīrvāṇalābhī bhaviṣyati. dīrghāyumuṃ pratilabhate. {sukhaṃ pratilabha}te. itaś cyutaḥ vicitravicitrāṃ nānābuddhakṣetrāṃ saṃkrāmati. sarva{tathā}gatasam{avadhānaṃ bha}viṣyati. sarvatathāgatā āśvāsaiṣyanti. sarvatathāgatā vyākariṣyanti. sarvatra buddhakṣetra<dhātāv>ā[loka]karo bhaviṣyati.”

## 参照テキスト

*Cf. Smaller Sukhāvāṭīvyūha-sūtra* (p. 96): sa kālaṃ krtvā tasyaivāmitāyūṣas tathāgatasya buddhakṣetre sukhāvatyāṃ lokadhātāv upapatsyate /

*Cf. Larger Sukhāvāṭīvyūha-sūtra* (p. 19): sacen me bhagavan bodhiprāptasya, tatra buddhakṣetre sahotpannāḥ sattvā naivaṃvidhaṃ sukhaṃ pratilabheraṃs, tad yathāpi nāma niṣparidāhasyārhatō bhikṣos tṛṭiyadyānasamāpannasya, mā tāvad aham anuttarāṃ samyaksambodhim abhisambudhyeyam.

*Cf. Smaller Sukhāvāṭīvyūha-sūtra* (p. 96): tatra khalu punaḥ śāriputra buddhakṣetre sattvaiḥ prañidhānaṃ kartavyaṃ / tat kasmād dhetoḥ / yatra hi nāma tathārūpaiḥ satpuruṣaiḥ saha samavadhānaṃ bhavati /

*Cf. Aṣṭasāhasrikā Prajñāpāramitā* (p. 6): buddhaiś ca samavadhānaṃ bhavati /

*Cf. Gaṇḍvīvyūha-sūtra* (p. 290): ebhiḥ kulaputra bodhisattvo daśabhir janmabhis tathāgatakule jāta evam ālokakaro bhavati sarvasattvānām /

## 写本転写 Ms., p. 111: 6 recto

6 nnaḥ sahabhāvatāyo deveṣū○papatsyante ° dine di[n]e .. kavīṃśativāra ... [i]tavyaḥ mahatā

7 sarvalokasya pūjanīyo bhaviṣyati ° ita cyutaḥ su[kh]. [va]tī lo ... .. tsyate || satata

8 m-u- smārya mahānīrvāṇalābhī bhaviṣyati ° dīrghāyumuṃ prati .. bhate ... .. te itaś..

9 taḥ vicitravicitrāṃ nānābuddhakṣetrāṃ saṃkrāmati ° sarva[t]. ... [ga]tasam. ... .. viṣyati ° sa .. + +

6 verso

1 gata āśvāsaiṣya[m]ti ° sa[rva] vyākariṣya[m]ti ° sarvatra buddha[kṣ]. trat[u] [ā] ... .. karo bha[viṣya]ti || da + + +

Melzer (2007, 111) reads: 6r7 matata

チベット訳 [T1: P. 231a1-; D. 247b3-]

su zhiḡ 'di nyin gcig bzhin du lan nyi shu<sup>1</sup> rtsa gcig<sup>2</sup> re re yongs su brjod pa de 'jig rten<sup>3</sup> mang po'i<sup>3</sup> mchod pa'i 'os su 'gyur ro // tshé ring bar 'gyur ro //<sup>4</sup> bde ba myong bar 'gyur ro // rtag tu spro ba dang ldan pa dang mya ngan las 'das pa chen po thob par 'gyur ro // shi 'phos nas kyang 'jig rten gyi kham s bde ba can du skye bar 'gyur ro //

de nas kyang<sup>5</sup> sangs rgyas kyi zhing tha dad pa<sup>6</sup> sna tshogs su<sup>6</sup> yongs su<sup>7</sup> 'gro bar 'gyur ro // der yang de bzhin gshegs pa thams cad<sup>8</sup> dang phrad par 'gyur //<sup>9</sup> de bzhin gshegs pa thams cad kyi kyang dbugs 'byin par 'gyur //<sup>10</sup> de bzhin gshegs pa thams cad kyi lung ston par 'gyur ro // sangs rgyas kyi zhing thams cad du yang 'jig rten<sup>11</sup> snang bar<sup>12</sup> byed par 'gyur ro //<sup>13</sup>

1. T2 P, D *ad.* rtsa gcig 2. D *om.* gcig 3. T2 P, D: pa chen po rnam s kyi s 4. T2 P, D *ad.* nad med par 'gyur ro // 5. T2 P, D *om.* kyang 6. T2 P, D: sna tshogs pa tha dad du 7. T2 P, D *om.* yongs su 8. T2 P, D *om.* thams cad 9. T2 P, D: 'gyur ro // 10. T2 P, D: 'gyur ro // 11, D, T2 P, D: rten la 12. T2 D: ba 13. T2 P, D *ad.* § 10.

漢訳 [351c22-]

佛言：「若人能日日誦此陀羅尼二十一遍、應消一切世間廣大供養、捨身往生極樂世界。若常誦念得大涅槃、復增壽命受勝快樂。捨此身已、即得往生種種微妙諸佛刹土。常與諸佛俱會一處、一切如來恒爲演說微妙之義、一切世尊即受其記、身光照曜一切刹土。」

和訳

「毎日、[この陀羅尼を] 二十一回誦するならば、広大な一切世界から、供養されるような者になるであろう。この[世] から去ったなら、極樂 {世界に往生する} であろう。

常に想起するならば、大涅槃を得たものとなるであろう。長寿を得る [だろう]。{幸せを得る [だろう]}。この[世] から去ったなら、種々様々な諸仏国土に往生する [だろう]。一切の諸々の如来と {俱に一処に会す} だろう。一切の諸々の如来が安慰するであろう。一切の諸々の如来が授記するであろう。仏国土のいたるところを、{照曜} する者となるであろう。」

## § 10 陀羅尼誦誦の方法 (儀軌)、壇法

“da{śāṅguli}m añjalīmudrām gr̥hya dve tarjanye dve jyeṣṭhāṅgulī sādhuḥkāśabdaṃ pīdayet. hṛdayasthāne ca sthāpayed. [eṣā] dhāraṇī smārayitavy[ā]. maṅḍalakam ca kartavyaṃ caturasrakam, nānāpuṣpāvākīrṇam ca kartavyaṃ. nānādhūpaṃ dhūpayitavyaṃ. dakṣiṇam jānumaṅḍalam pṛthivyām pratiṣṭhāpya sarvatathāgatānām dhyānabalam manasikartavyaṃ. aṣṭottaraśataṃ dhāraṇī japtavy<ā>.

sakṛjjāpamātrayā aṣṭāśītīnām tathāgatakoṭīgaṅgānādivālī<u>kāsamānām nayutaśatasahasrānām buddhānām bhagavatām te sarve satkr̥tā gurukṛtā mānitā. yathā tathāgatapūjayā tathā mahāpūjā-meghaiḥ pūjitāni bhaviṣyanti. sarve sādhuḥkāśabdaṃ niścārayanti.

sarvatathāgatā<nā>ṃ janmaputra<ḥ> sa sattvo veditavya<ḥ>. anāvaraṇajñānasamanvāgato veditavyaḥ mahābodhicittālamkārasamādhiṃ pratilabhate. eṣa dhāraṇīsādhanavidhiḥ.”

## 参照テキスト

Cf. *Lalitavistara* (p. 5): praṇamya pāḍau pratidakṣiṇam ca kṛtvaiva mām tasthur ihāgrato me / pragr̥hya caivāñjalim aṅgulībhīḥ sagauravā māmiha te yayācuḥ // Lal\_1.9 //

Cf. *Lalitavistara* (p. 158): candraśca sūryo ubhi devaputrau pradakṣiṇam vāmaku supratisthitau / daśāṅgulī añjalibhir gr̥hītvā naiṣkrāmya śabdo ‘nuvicārayanti // Lal\_15.66 //

Cf. *Ratnaketuparivarta* (p. 1): eṣā dhāraṇī udgrahaṇīyā /

## 写本転写 Ms., p. 111: 6 verso

- 1 gata āśvāsaiṣya[m]ti ° sa[rva] vyākariṣya[m]ti ° sarvatra buddha[ks]. trat[u] [ā] .. karo bha[viṣya]ti || da + + +
- 2 m añjalīmudrām gr̥hya dve tarjanye dve jyeṣṭhāṅgulī sādhuḥkāśabdaṃ pīdayet\* hṛdayasthāna ca sthāpayed.
- 3 ṣa dhāraṇīm-u smārayi-tavyaḥ maṅḍalakam ca kartavyaṃ ° caturasraka[m] nānāpuṣpāvākīrṇam ca ka .tavyaṃ ||
- 4 nānādhūpaṃ dhūpayitavyaṃ ° dakṣiṇam jānumaṅḍalam pṛthivyām pratiṣṭhāpya sarvatathāgatānām [dhyā]nabala
- 5 manasikartavyaṃ ° aṣṭottaraśataṃ dhāraṇī japtavyaṃ\* [sa]kr̥jjāpamātrayā aṣṭāśītīnām tathā
- 6 gatakoṭīgaṅgānādivālī◊kāsamānām nayutaśatasahasrānām buddhānām bhagavatām te sa
- 7 rve [sa]tkṛtā gurukṛtā mānitā ° yathā tathāgatapūjayā tathā mahāpūjāmeghaiḥ pūjitāni bhavi
- 8 ṣyamti ° sarve sādhuḥkāśabdaṃ niścārayamti ° sarvatathāgatām janmaputra sa satvo veditavya || [a]
- 9 nāvaraṇajñānasamanvāgato veditavyaḥ mahābodhicittālamkārasamādhiṃ pratila[bha]te ° eṣa
- 10 dhāraṇīsādhā[nav]idhi[h] || anenopāyena .e[v]e[n].r[a] sar[v]asatvanarakagatiḥ parimucyante °

Melzer (2007, 111) reads: 6v4 [dhyā]nabalam; 6v5 aṣṭāśītīc/vām; 6v7 pūjitā vibhavi; 6v9 -āvaraṇa[sthā]nasamanvāgato; 6v10 dhāraṇīsādhā[kav]idhi[h]

チベット訳 [T2: P. No. 199: 234b8–235a5; D. No. 233a4–7]

phyag rgya bcing ba ni sor mo bcu'i thal mo la bsdigs<sup>1</sup> 'dzub<sup>2</sup> gnyis bkug ste mthe bong gnyis dang sbyar la / de nas gzungs 'di dran par bya'o // dkyil 'khor gru bzhi pa byas te me tog sna tshogs bkram la sna tshogs pa'i bdug pas bdug cing / pus mo gyas pa 'i lhang sa la btsugs te / de bzhin gshegs pa thams cad ting nge 'dzin gyis dmyigs<sup>3</sup> la phyag bya zhing / de nas gzungs brgyad brgya klag<sup>4</sup> par bya'o //

de ltar lan gcig klags<sup>5</sup> pa tsam kyis<sup>6</sup> bye ba khrag khrig brgya stong phrag brgyad cu rtsa brgyad kyi gang gā'i klung gi bye ma dang mnyam pa'i de bzhin gshegs pa thams cad la mchod cing bsnyen bkur ba dang / ri mor byas pa ste / de bzhin gshegs pa thams cad la mchod pa chen po<sup>8</sup> sprin gyis mchod par 'gyur ro // de kun gyis kyang legs so zhes bya ba'i sgra brjod par 'gyur ro //

sems can de ni de bzhin gshegs pa thams cad kyi bdag nyid las skyes pa'i sras su rig par bya'o // sgrib pa med pa'i ye shes dang ldan zhing byang chub chen po'i sems kyi rgyan dang mnyam pa thob par 'gyur ro //

1. D: sdigs 2. D: mzdub 3. D: dmigs 4. D: bklag 5. D: bklags 6. D: gyis 7. D: / bkur dang 8. D: po'i

漢訳 [351c27–]

佛言：「若誦此陀羅尼法、於其佛前先取淨土作壇。隨其大小方四角作、以種種草華散於壇上、燒衆名香、右膝著地胡跪、心常念佛。作慕陀羅尼印。屈其頭指、以大母指押合掌、當其心上。誦此陀羅尼一百八遍訖、於其壇中如雲王雨華、能遍供養八十八俱胝殑伽沙那庾多百千諸佛。彼佛世尊咸共讚言：『善哉、希有！』眞是佛子、即得無障礙智三昧、得大菩提心莊嚴三昧。持此陀羅尼法應如是。」

和訳

「十指で合掌印を取って、兩人差指、両親指を、「善哉！」という語を[発しながら]、押しつけ、心臓(胸)の位置に置きなさい。この陀羅尼を想起しなさい。そして、壇(maṇḍalaka)を正方形に作りなさい。様々な華を撒きなさい。様々な香を炊きなさい。右膝を地に着けて、一切如来の禪定の力を心にとどめるべきである。百八回陀羅尼を唱えるべきである。

ひとたび唱えるだけで、八十八恒河沙(ガンジス川の砂の数)に等しい[数の]百千ナユタ[倍]の如来、諸仏、世尊の、彼ら全てが、恭敬され、尊重され、尊敬されたことになる。如来の供養によるそのように、大きな供養[を雨降らす]雲によって供養されたことになる。一切[の諸仏]は、「善哉！」という語を放つのである。

その衆生は一切諸如来の実子であると知られるべきである。無礙の智慧に到達したものと知られるべきである。大菩提心莊嚴三昧を得るのである。これが陀羅尼の成就の儀軌である。」



チベット訳 [T1: P. No. 198: 231a5–231b2; D. No. 597: 247b5–248a3]

lha'i dbang po thabs 'dis ni<sup>1</sup> 'gro ba<sup>2</sup> thams cad kyang sems can dmyal ba la sogs pa'i 'gro ba thams cad<sup>3</sup> las yongs su thar bar 'gyur ro // de dag gi<sup>4</sup> 'gro ba thams cad kyang yongs su dag cing<sup>5</sup> tshe ring bar yang<sup>6</sup> 'gyur ro // lha'i dbang po song la lha'i bu blo gros shin tu rten pa la gzungs 'di rjes su ston la sgrogs shig / lha'i dbang po des na zhag bdun na lha'i bu shin tu rten pa'i 'gro ba thams cad yongs su dag cing tshe ring bar 'gyur ro // stobs che bar 'gyur ro //

de nas lha'i dbang po brgya byin gyis de bzhin gshegs pa las rjes su bstan pa 'di blangs te / de'i gnas su phyin nas lha'i bu shin tu rten pa la gzungs 'di byin no //

de nas lha'i bu des nyi ma bdun pa'i bar du nyin drug mtshan drug tu gzungs 'di la brtson par byas pa na<sup>7</sup> de'i bsam pa thams cad phun sum tshogs te / 'di lta ste<sup>8</sup> ngan 'gro las ni yongs su thar // bde 'gro'i lam la yang gnas tshe ring ba yang gyur nas / a la la sang rgyas / a la la chos / a la la gzungs 'di lta bu 'jig rten du byung ste / des bdag 'jigs pa chen po las yongs su thar bar gyur to<sup>9</sup> zhes ched du <sup>10</sup>brjod do<sup>10</sup> //<sup>11</sup>

'phags pa ngan 'gro thams cad yongs su sbyong ba gtsug tor nmam par rgyal ba zhes bya ba'i gzungs rdzogs s-ho<sup>12</sup> // //

1. T2 P de la gzungs sgrub pa'i cho ga'i thabs 'di ni, D: de la gzungs bsgrub pa'i cho ga'i thabs 'di ni 2. T2 P, D: lha'i dbang po 'gro ba 3. T2 P, D: pa'i ngan 'gro 4. D: gis 5. T2 P, D: dag par 'gyur ro // 6. T2 P, D om. yang 7. T2 P byas nas, D: byas nas / 8. D: tshogs pa 'di lta ste / 9. T2 P thar to, D: thar to // 10. D, T2 D: brjod pa ched du brjod do, T2 P: brjod pa brjod do 11. T2 P, D ad. § 12 12. D: so

漢訳 [352a07–]

佛告：「天帝、我以此方便一切衆生應墮地獄道令得解脫、一切惡道亦得清淨、復令持者增益壽命。天帝、汝去。將我此陀羅尼授與善住天子。滿其七日、汝與善住俱來見我。」

爾時天帝、於世尊所受此陀羅尼法、奉持還於本天、授與善住天子。

爾時善住天子受此陀羅尼已、滿六日六夜依法受持、一切願滿、應受一切惡道等苦即得解脫、住善提道、增壽無量。甚大歡喜、高聲歎言：「希有如來！希有妙法！希有明驗！甚爲難得、令我解脫。」

和訳

「この方法によって、天帝よ、一切衆生は、地獄趣から解放されるのである。一切趣が清淨となるのである。長寿となるのである。|行きなさい、天帝よ。善住| 天子に対して教授しなさい。[そして] 七日目には、天帝よ、|善住天子とともに私のもとにやって来なさい\*|」[と]。

すると、帝釈天は如来のもとでこの教説を受けとって、かの自らの住居へ |帰ると、善住| 天子にこの陀羅尼を授与したのであった。

さて、かの天子はその陀羅尼に熟達した。六夜がすべて昼に達するまで。円満するまで。一切趣から解放されるまで、善逝の道に旅立つまで、大変長い寿命を持つ者となるまで。[そして、その天子は] 大いなる感興の言葉を自説した。「ああ、ブツダが、ああ、ダルマが、ああ、明呪が世間に顕れた。それによって我々が解放されるような。」と。

\* 写本の欠損したこの箇所は、漢訳では「汝與善住俱來見我」と訳されている。これに対して、チベット訳では、直前の句を受けて「一切趣が清淨となり、長寿となるであろう。」と述べられ、さらに「大力を得るであろう。」という句を加え、陀羅尼の3つの功德が挙げられる。ただし、欠損箇所から見てこれだけの長さのフレーズが当該の写本に存在していたとは考えられない。

## § 12 結び：帝釈天による仏陀再訪

atha śakro devānām indraḥ supraṭiṣṭhit<a>devaputrasārdhaṃ mahatā parivāreṇa puṣpadhūpagan dhamālyavilepanacchatradhvajapatākaiḥ vastrābharaṇālaṃkāraiḥ divyair devavimānair mahatā devavyūhānubhāvair bhagava(to 'nti)ke upasaṃkrāntāḥ, bhagava(te mahāntaṃ pūjāsatkāraṃ akārṣīt). {divyavastrai}ś cā{bharaṇ}ālaṃkāraiḥ pūjayi{tvā} bhagavataḥ śatasaha{sraḥ}bhīḥ pradakṣiṇīkr̥tya bhagavataḥ pu)rataḥ sthitvā udānam udānayaṃ, bhagavataḥ purato {niṣaṅṅo dharmāśravaṇāya} ||

atha bhagavān suvarṇavarṇaṃ bāhuṃ prasārya, supraṭiṣṭhitasya devaputrasya samāśvāsya dharmadeśanām akarot, yāvad buddhatve vyākṛtam iti

sarvagati{pari}śodhana-uṣṇīṣavijayā {nāma dhāraṇī} samāpt<a>

## 参照テキスト

*Cf. Suvarṇaprabhāsa-sūtra* (p. 90): bhagavato 'ntike dharmāśravaṇāyopasaṃkrāmanti /

*Cf. Ms.*, 5r8: pūjāsatkāraṃ akārṣīt.

*Cf. Gaṇḍavyūha-sūtra* (p. 179): tasya tathāgatasya sabodhisattvaśrāvakaśaṃghasya mahāntaṃ pūjāsatkāraṃ akārṣīt /

*Cf. Gaṇḍavyūha-sūtra* (p. 92): daśa ca śakradevendrasātasahasrāṇi pratyekaṃ dvātriṃśadbhir upendraini sadevaputrāpsarogaṇaparivāraiḥ sārdhaṃ divyavastraratnābharaṇakusumameghavarṣaṃ abhipravṛtya evam āhuḥ...

*Cf. Karuṇāpūṇḍarīka-sūtra* (p.70): bhagavāms tenopajagāmapetya bhagavataḥ pādau śirasā vanditvā bhikṣusaṅghasya ca bhagavataḥ purataḥ niṣaṅṅo dharmāśravaṇāya /

*Cf. Aṣṭasāhasrikā Prajñāpāramitā* (p. 244): atha khalu te tathāgatāḥ sadāpraruditāṃ bodhisattvaṃ mahāsattvaṃ samāśvāsya antarhitā abhūvan /

## 写本転写 Ms., p. 111: 7 recto

7 aho buddhaḥ aho dharmāḥ aho vidyā loke prādurbhāvaḥ [ye]na vayaṃ parimuktam iti || atha śakkro  
8 devānām indraḥ supraṭiṣṭhitaṃ devaputrasārdhaṃ mahatā [pa]rivāreṇa puṣpadhūpagandhamālyavi  
9 lepanacchatradhvajapatākaiḥ vastrābharaṇālaṃkāraiḥ ◊ ◊ di ..air devavi[m]ānair mahatā devavyūhā  
10 nubhāvair bhagava ... ke-m [u]pasam[k].āntāḥ bhagava ..++ ..+++++ ... .ā ..m++  
7 verso

1 ś cā ... .ālaṃkā .aiḥ [p]ūjayi .. bhagavataḥ śata[saha] ◊+++++ [kr]ty. [bh]. [g]. ...  
2 rataḥ sthitvā udānam u[dā]nayaṃ ◊ bhagavata purata [n]i ◊ ◊ ◊ ◊ + n[o] .. r[m]. [śra] ... [ya] || atha  
3 bhagavā[n\*] [s]uvarṇavarṇaṃ bāhu prasāryaṃ supraṭiṣṭhitasya [d]e[va]putrasya sa[mā]śvāsya [dhar]ma[deśa]nā  
4 m akarot\* yāvad b. ddhatve vyākṛta◊m iti ◊ sarvaga[t]i ... .iśodha[na]-uṣṇīṣavijayā ... .. [nī]  
5 samāp[t]am\* :|| ◊ :||

Melzer (2007, 111–2) reads: 7r8 .. [r]i[v]āreṇa; 7v2 [n]i ◊ ◊ ◊ ◊ + n.ā; 7v3 bhagavā ..

チベット訳 [T2: P. No. 199: 235b2-5; D. No. 594: 233b5-7]

de nas lha mams kyi dbang po brgya byin dang / lha 'i bu shin tu rten pa 'khor che ba mams kyis me tog dang / dri dang bdug pa dang phreng ba dang / gdugs dang rgyal mtshan dang ba dan dang gos kyis<sup>1</sup> rgyan bzang po 'i bla re dang / lha 'i tshogs kyi mthus bcom ldan 'das kyi drung du phyin ste<sup>2</sup> thad du phyin pa dang / bcom ldan 'das la mchod pa chen po lha rdzas kyi gos kyi rgyan la sogs pa nye bar 'kho<sup>3</sup> ba 'i mchod pa brgya stong phul te bskor ba byas nas bcom ldan 'das kyi mdun du 'dug ste / de bzhin du ched du brjod pa byas nas bcom ldan 'das kyi mdun du 'dug ste chos nyan to //

de nas bcom ldan 'das kyis phyag gser gyi mdog can brkyang ste lha'i bu shin tu rten pa dbug phyung nas chos ston par byed cing sangs rgyas kyi bar du lung ston to //

1. D: kyi 2. D: te 3. D: mkho

---

漢訳 [352a17-25]

爾時帝釋、至第七日、與善住天子將諸天衆、嚴持華鬘・塗香・末香・寶幢・幡蓋・天衣・瓔珞・微妙莊嚴往詣佛所、設大供養。以妙天衣及諸瓔珞供養世尊、繞百千匝於佛前立、踊躍歡喜、坐而聽法。

爾時世尊舒金色臂摩善住天子頂、而爲說法授菩提記。佛言：「此經名“淨除一切惡道佛頂尊勝陀羅尼”、汝當受持。」

爾時大衆聞法歡喜、信受奉行。

『佛頂尊勝陀羅尼經』

---

和訳

さて、帝釈天は、善住天子とともに、多くの眷属によって、また、華、香水、抹香、華鬘、塗香、傘蓋、幢、幡によって、衣服、装飾品によって、天的な神々の乗り物によって、居並んだ神々の偉大なる威光をもって、世尊の {おられるところに} 近づいて、世尊 {に対し} 広大な供養、恭敬をなした。様々な天衣、装飾品、莊嚴によって供養すると、世尊に対して百千回右繞した後、世尊の前に立つと、感興の言葉を自説しつつ、世尊の前に聞法のために座ったのであった。

すると、世尊は金色の手を伸ばし、善住天子の [頭頂をなでること (摩頂) によって] 安慰すると、仏性が授記されるまでの法の教示をなしたのである。

『一切趣清淨仏頂尊勝』という名の陀羅尼は以上である。

キーワード：『仏頂尊勝陀羅尼經』、ギルギット・バーミヤン写本、仏陀波利

**Abstract**

*Sarvagatipariśodhana-Uṣṇīṣavijayā nāma Dhāraṇī.*

Sanskrit Text Collated with Tibetan and Chinese Translations, along with Japanese Translation

Toshiya UNEBE

This article presents a Sanskrit text of *Sarvagatipariśodhana-Uṣṇīṣavijayā nāma Dhāraṇī*, collated with Tibetan and Chinese translations in order to provide materials for a future more critical and comprehensive edition. According to Batton (2000), a professional numismatist brought an early birch bark manuscript to her studio for consultation in the fall of 1998. It then turned out to be a Gilgit-Bamiyan manuscript of the text well corresponding to Chinese versions of the sūtra of the *Uṣṇīṣavijayā Dhāraṇī*, which narrates an episode relating the circumstances that led the Buddha to teach the *dhāraṇī*. At present, MIHO museum at Shiga Prefecture, Japan holds this manuscript.

This episode had been available only in Chinese and Tibetan translations until the finding of this Gilgit-Bamiyan manuscript. Melzer (2007) has already provisionally transliterated and edited the manuscript. As she shows, it has been damaged and many portions of it are missing. To fill the gaps, this article presents parallel passages found in other Sanskrit Buddhist texts. Also, as a supplement to the collated text, I have added a Japanese translation of the preliminary reconstructed Sanskrit text.

Keywords: *Uṣṇīṣavijayā*, Gilgit-Bamiyan manuscript, Buddhapāli